

## I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

## 1. 2018 年の総括

2018 年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症(性感染症を除く)の特徴について概説する(表)。全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、手足口病、RS ウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。大阪府では、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病、流行性角結膜炎の順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相違が認められている。

大阪府の発生動向について、2017 年と比較すると、感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 5.16 から 5.35 へ、昨年より、3.7%の増加が見られた。また、インフルエンザの年平均の週間報告数が 4.92 から 6.21 へ、昨年より、26.2%の増加が見られた。一方、昨年、平均週間報告数が 2.15 であった手足口病が 2018 年は 0.48 へと、77.7%、減少していた。

(文責：本村)

表 定点あたり年平均の週間報告数

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点当たり 報告数	順位	感染症	定点当たり 報告数
1	インフルエンザ	7.38	1	インフルエンザ	6.21
2	感染性胃腸炎	5.18	2	感染性胃腸炎	5.35
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.18	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.07
4	流行性角結膜炎	0.85	4	RS ウイルス感染症	0.98
5	手足口病	0.75	5	咽頭結膜熱	0.51
6	RS ウイルス感染症	0.74	5	ヘルパンギーナ	0.51
7	ヘルパンギーナ	0.61	7	手足口病	0.48
8	咽頭結膜熱	0.45	7	流行性角結膜炎	0.48

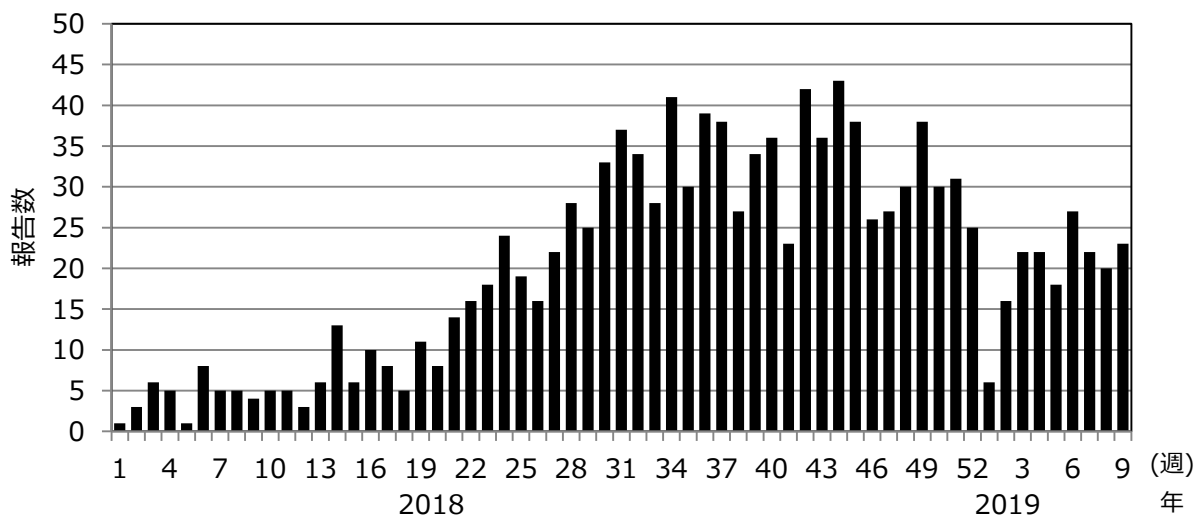
## 1) 2018年に注目された感染症

### [百日咳]

百日咳 (pertussis, whooping cough) は、特有のけいれん性の咳発作（痙咳発作）を特徴とする、細菌性の急性気道感染症であり、1歳以下、特に6ヶ月未満の乳児では、重症化しやすい疾患である。主な原因菌は百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) であり、感染力は強いと言われている。現在わが国では無細胞ワクチン (acellular vaccine) の百日せきワクチンを含む四種混合ワクチン (ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ) の定期摂取が実施されている。百日咳はワクチンの普及により世界的に感染者数は激減してきたが、無細胞ワクチンでは5年から10年程度で効果が減弱することなどが指摘されており、今なお注意が必要な疾患である。

わが国では2017年末まで感染症法に基づき小児科定点疾患として報告され、大阪府の2017年、2016年の定点あたり報告数はそれぞれ0.01、0.02であった。一方で、百日咳は成人でも発症し、非典型的な症状を示すこと、さらに近年先進国では青年・成人の感染者が増加していることから、小児科定点報告だけではその感染実態を把握できないことが指摘されていた。そのため感染症法が改正され、2018年1月1日から百日咳は全数把握疾患に指定された。これにより医療機関からの報告数が増加し、今までよりも詳細な感染実態を把握することが可能となってきた (図1)。2018年は、死亡症例の報告はなく、本疾病の年齢分布は図2に示すとおりであった。6ヶ月未満の乳児に患者が多いことは知られていたが、6歳から8歳にかけて増加傾向が明らかとなった。これは小学校での集団生活やワクチンの効果減弱の時期と重なる。海外では、小学校入学時にワクチンの追加接種を実施している国もあり、今後、わが国でも追加接種の必要性を検討するべきであると考えられた。また20代から40代にかけて増加傾向が見られるため、今後も注視する必要がある。また0歳児では、特に予防接種

図1. 百日咳の報告数の週別推移 (大阪府、2018年第1週から2019年第9週まで)



が始まる前の生後2ヶ月が最も報告数が多く、引き続き注意が必要である（図3）。推定感染経路のうち家庭内感染は約60%であった。父親もしくは母親からの感染が疑われる症例は、それぞれ約10%であるのに対し、同胞（兄弟等）では27%となっているため、家庭内では兄弟からの二次感染に注意が必要である。

百日咳の全数把握報告は2018年から始まったばかりであるが、今後も継続して行うことで、季節変動や流行の推移など今まで明らかにできなかった疫学上有益な情報を収集することができる。この得られた情報は、本疾病に関する予防接種戦略を立てる上で重要なものになると考えられる。

（文責：山口）

図2. 百日咳 年齢分布（2018年）

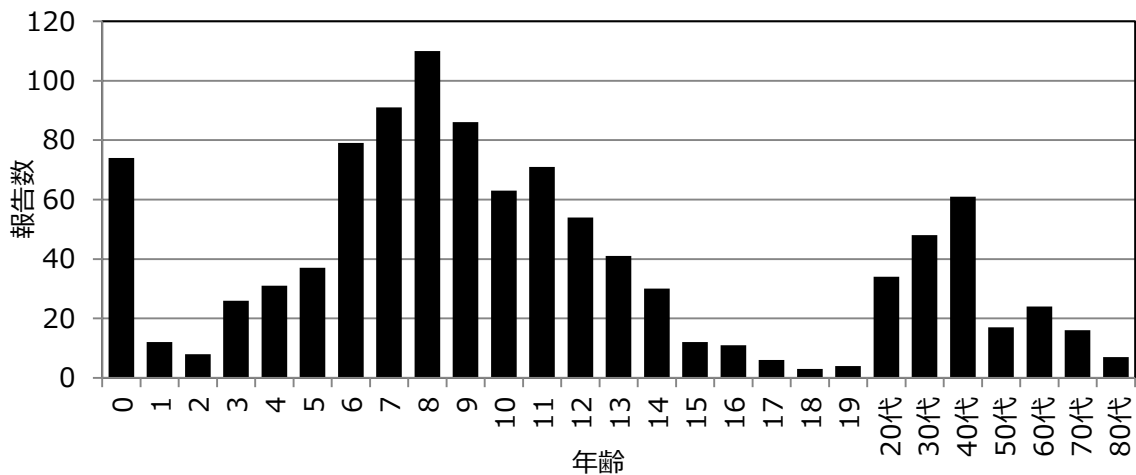
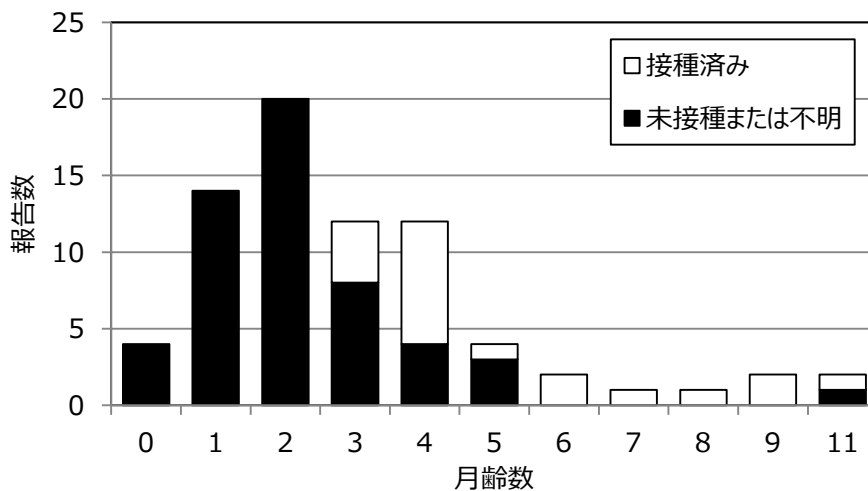


図3. 0歳児の百日咳患者とワクチン接種の有無（2018年）



[風しん]

風しん (rubella) は、発熱、発しん、リンパ節腫脹を主徴とするウイルス性の発しん性疾患である。風しんの最大の問題は、妊娠初期の妊婦が風しんに罹患した場合、出生児が先天性心疾患、難聴、白内障を主徴とする先天性風しん症候群 (congenital rubella syndrome : CRS) を発症する可能性がある点である。現在、The Measles and Rubella Initiative (WHO、ユニセフ、米国赤十字社、米国 CDC) は、世界的な風しん排除を目指す為、「Global Measles and Rubella Strategic Plan: 2012-2020」を示し活動している。この中で、2020 年末までに 6 つある WHO 地域のうち少なくとも 5 つの地域で麻しん風しんの排除を達成することを目標としている。これを受け、WHO 西太平洋地域においても、「Measles and Rubella Elimination in the Western pacific: Regional Strategy and Plan of Action」を策定し、日本は 2020 年までの風しん排除を目指している。日本では、2018 年より「風しんに関する特定感染症予防指針」を改訂し、風しんの排除認定を受ける為の基盤を整えている。国内では、2012 年から 2013 年に大規模な風しん流行が発生して以降、風しん流行は確認されてこなかった。しかし、2018 年第 29 週から 33 週にかけて、首都圏を中心に風しん患者が増加し、大阪府内においても 2008 年の全数届出開始以降では、2012 年、2013 年に次いで 3 番目に大きな流行となった (図 1)。本稿では、大阪府内における 2018 年の風しんの疫学情報、遺伝子型解析の結果について報告する。

2018 年は大阪府内で 123 例の風しん患者が報告された。最初の患者は、5 月 (第 20 週) に報告された (図 2)。第 34 週に患者が報告されて以降は、継続して風しん患者が報告された (図 2)。第 42 週から 45 週にかけて 1 週間に 10 例以上報告され、この期間が 2018 年のピークとなった (図 2)。123 例中、93 例 (75.6%) は男性、30 例 (24.4%) は女性であった。年齢

図 1. 大阪府内の風しん患者報告数の推移 (2008 年から 2018 年)

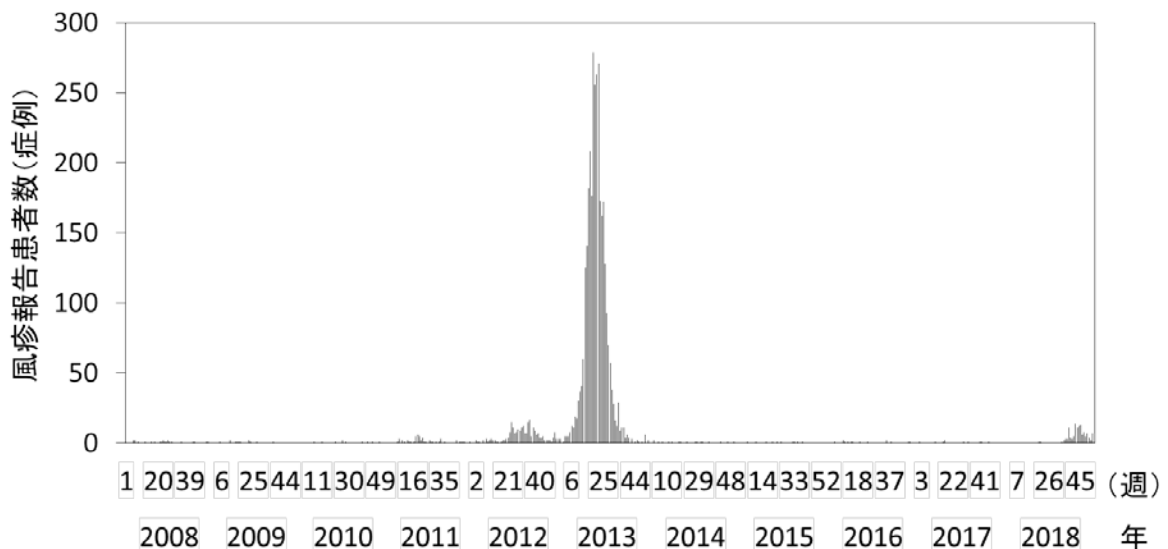
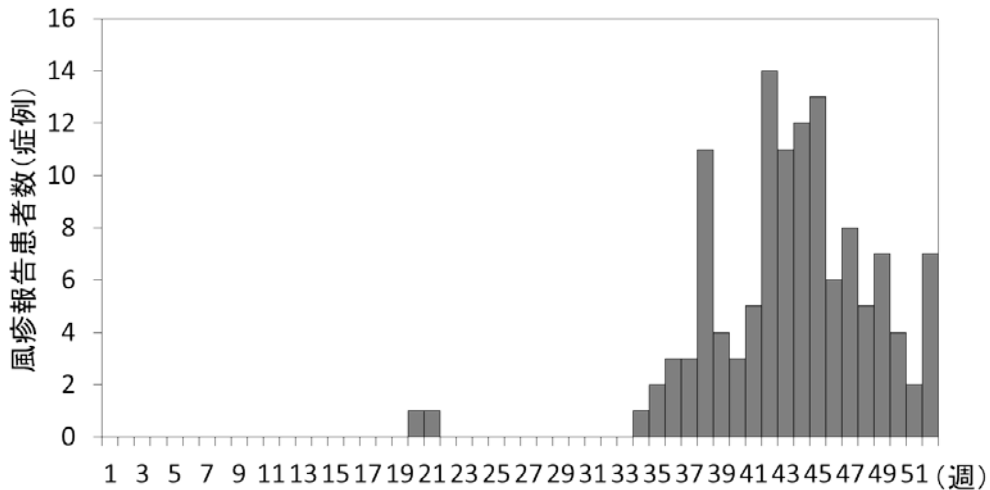


図 2. 2018 年の大阪府内の風しん発生動向



中央値は、男性 41 歳（範囲：1-71）、女性 33 歳（範囲：17-65）であった。ワクチン接種歴は、不明（82 例、66.7%）、0 回（31 例、25.2%）、1 回（10 例、8.1%）であった。核酸検査で風しんウイルス陽性となった症例について、検出された風しんウイルスの E1 遺伝子（739 塩基）の配列に基づき遺伝子型別を行ったところ、遺伝子型別が実施出来た 60 株の遺伝子型は、遺伝子型 1E（59/60；98.3%）と遺伝子型 2B（1/60；1.7%）であった。近年、世界的に検出されている風しんウイルスの遺伝子型は、遺伝子型 1E と 2B に集中している為、遺伝子型の

図 3. 風しんウイルス遺伝子型 1E の系統樹解析

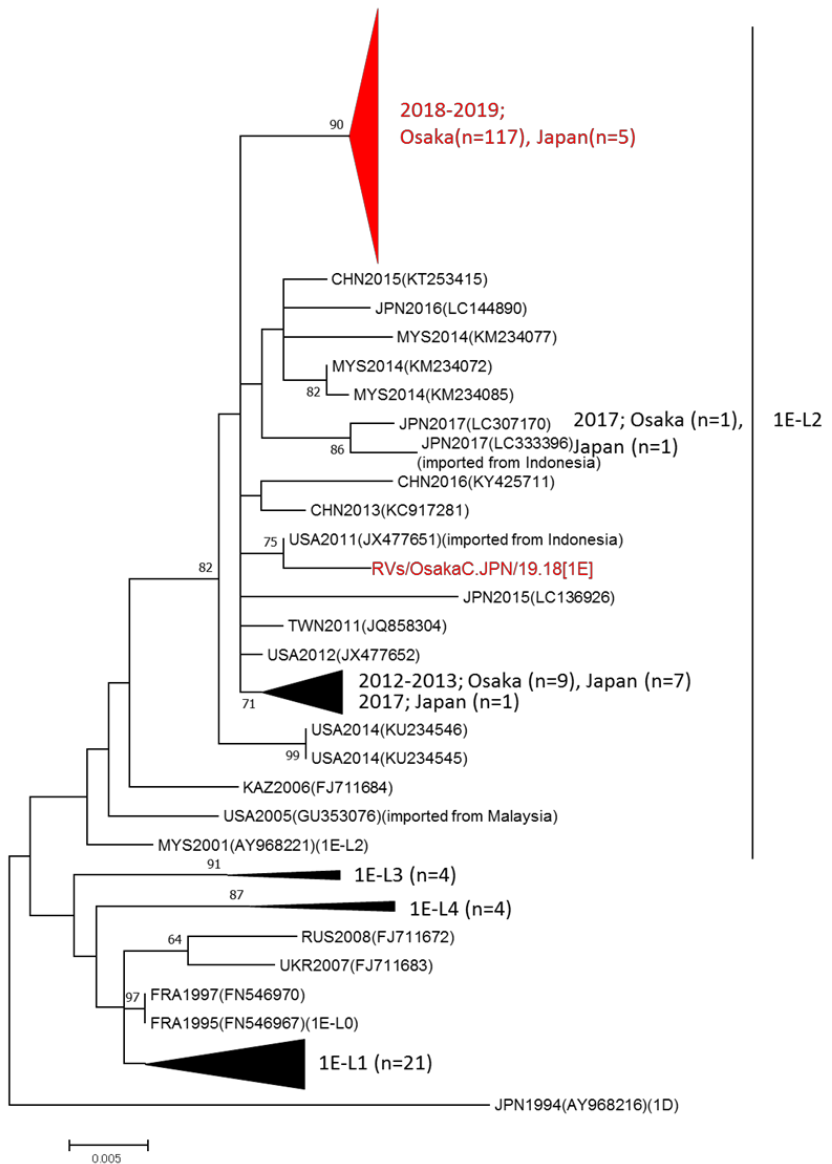
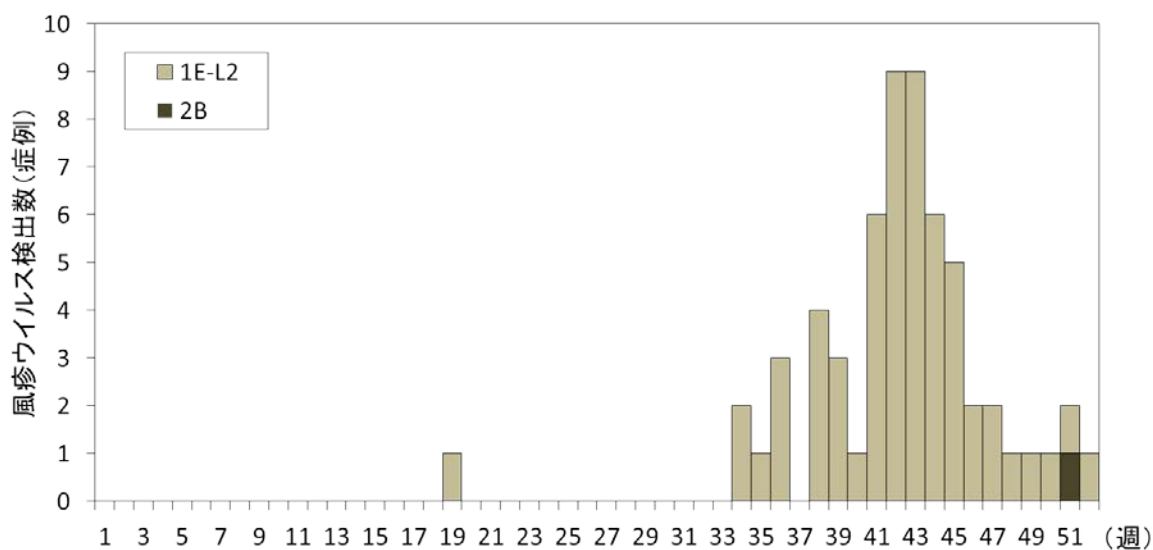


図 4. 2018 年週別の大阪府内の遺伝子型別風しんウイルスの検出状況



情報のみで土着株と輸入株等の詳細な情報を得ることは出来ない。そこを解決する為に、系統樹解析を用いて細分類する方法が提唱されている。系統樹解析に基づき細分類すると、2018年に検出された遺伝子型 1E、遺伝子型 2B の風しんウイルスは、それぞれ Lineage2(1E-L2) と Lineage1(2B-L1)に分類された(図 3)。遺伝子型 1E の風しんウイルスは、東アジア・東南アジア地域、並びに 2018 年に首都圏で検出された風しんウイルスと単系統群を形成し近縁性が高かった。2018 年に検出された風しんウイルスは、2012 から 2013 年に検出された風しんウイルスとは、クラスターが異なっていた。2018 年に検出された風しんウイルスを遺伝子型 (Lineage) 別かつ週別にみると、遺伝子型 1E-L2 に分類される風しんウイルスによる感染伝播が続いていることが明らかになった(図 4)。

2018 年も過去の流行と同様に、風しんの予防接種を公的に受ける機会がなかった成人男性を中心として感染が拡大した。系統樹解析の結果から、東アジア・東南アジア地域から風しんウイルスが持ちこまれ、感受性集団の間で感染が拡大したものと推察された。日本国内から風しんを排除する為には、流行国での風しん排除、又は、日本国内の抗体保有率を改善するしかない。東南アジア地域、特にインドネシアやインドでは風しん流行が続いている状況、訪日外国人が増加している状況を鑑みると、流行国から風しんウイルスが持ち込まれても感染を拡大させない環境を早期に構築する必要がある。特に抗体保有率が低い、昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性に対し、予防接種法に基づく定期接種の対象とし成人男性の抗体保有率を改善できるよう取り組みが始まっている。

(文責：上林)

## 2) 感染症別・週別患者報告状況

「2018年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表1）。インフルエンザは、2017年と比較して同じく、1月第5週に最高値を示し、過去5年と比べて、最も高い定点当たり報告数となった。2018年1月は、A型インフルエンザウイルスとB型インフルエンザウイルスが同時に検出され流行したためと考えられる。また、感染性胃腸炎は、2017年同様に、少ない報告数を示しており、例年11-12月に最高値に達するが、2017年と比較して3週早く、5月第3週に最高値を示している。RSウイルス感染症は、2017年と比較して1週遅く、9月第1週に最高値を示した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、二峰性の流行パターンを示すが、2017年と比較して2週早く、5月第4週に最高値が報告された。感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、2017年同様に、4月第3週に最高値を示していた。手足口病は、2017年と異なり、流行しておらず、2017年の定点当たり報告数の最高値は14.38と7月第2週に最高値を示していたが、2018年は、7月第5週に1.44と報告されていた。

2018年と2017年における感染症発生動向の増減を比較すると、2018年は、インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、細菌性髄膜炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）が増加傾向を示していた（表2）。特に、増減率をみると、伝染性紅斑が2017年に比べ3.15倍、インフルエンザは1.25倍であった。伝染性紅斑は妊娠初期に妊婦が感染すると胎児水腫をきたし流産の原因になることがあり、発生動向を注視する必要がある。

（文責：本村）

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2018年）

大阪府				
疾患		定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	5週（1月第5週）	45.13	30
2	感染性胃腸炎	21週（5月第3週）	9.36	20
3	RSウイルス感染症	36週（9月第1週）	3.49	未設定
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22週（5月第4週）	3.31	8
5	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	16週（4月第3週）	1.59	未設定
6	手足口病	31週（7月第5週）	1.44	5

表2. 2018年と2017年における感染症発生動向比較

小児科定点疾患	2018年	2017年
インフルエンザ ↑	98,247	78,654
RSウイルス感染症 ↓	10,174	11,675
咽頭結膜熱 ↑	5,234	5,210
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↓	21,308	21,598
感染性胃腸炎 ↑	55,220	53,649
水痘 ↓	3,919	4,037
手足口病 ↓	4,981	22,324
伝染性紅斑 ↑	1,648	523
突発性発しん ↓	4,481	4,589
ヘルパンギーナ ↑	5,293	4,967
流行性耳下腺炎 ↓	1,251	4,972
合計	113,509	133,544

眼科定点疾患	2018年	2017年
急性出血性結膜炎 ↑	45	42
流行性角結膜炎 ↑	1,285	1,108
合計	1,330	1,150

基幹定点疾患	2018年	2017年
細菌性髄膜炎 ↑	19	18
無菌性髄膜炎 ↓	26	44
マイコプラズマ肺炎 ↓	165	295
クラミジア肺炎（オウム病を除く） ↓	2	3
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ↑	239	237
合計	451	597



## 3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を 11 ブロック（①豊能、②三島、③北河内、④中河内、⑤南河内、⑥堺市、⑦泉州、⑧大阪市北部、⑨大阪市西部、⑩大阪市東部、⑪大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1 年間でより流行が認められた地域を定点当たりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点当たり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位 8 疾患のうち、南河内は 4 疾患（感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、突発性発しん）で首位を占めていた（表）。一方、大阪市東部ブロックは 4 疾患（感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病）で、最下位であった。

(文責：本村)

表. 感染症別・ブロック別患者報告状況（網掛けは最高ブロックと定点あたり報告数）

インフルエンザ		感染性胃腸炎		A 群溶血性レンサ球菌		RS ウイルス感染症	
豊能	4.83	豊能	5.18	豊能	2.03	豊能	0.61
三島	5.33	三島	4.37	三島	1.59	三島	0.48
北河内	6.45	北河内	6.18	北河内	1.97	北河内	0.98
中河内	6.30	中河内	7.04	中河内	2.11	中河内	1.01
南河内	8.61	南河内	9.20	南河内	2.97	南河内	1.87
堺市	5.64	堺市	2.94	堺市	2.36	堺市	0.91
泉州	6.25	泉州	5.88	泉州	2.38	泉州	0.82
大阪市北部	7.37	大阪市北部	5.31	大阪市北部	1.66	大阪市北部	1.86
大阪市西部	9.54	大阪市西部	4.67	大阪市西部	1.88	大阪市西部	1.21
大阪市東部	5.09	大阪市東部	2.67	大阪市東部	1.10	大阪市東部	0.70
大阪市南部	4.93	大阪市南部	4.46	大阪市南部	2.40	大阪市南部	0.82
府内平均	6.21	府内平均	5.35	府内平均	2.07	府内平均	0.98

ヘルパンギーナ		咽頭結膜熱		手足口病		突発性発しん	
豊能	0.36	豊能	0.37	豊能	0.43	豊能	0.34
三島	0.45	三島	0.36	三島	0.28	三島	0.29
北河内	1.01	北河内	0.71	北河内	0.76	北河内	0.57
中河内	0.37	中河内	0.79	中河内	0.53	中河内	0.62
南河内	0.61	南河内	0.46	南河内	0.38	南河内	0.57
堺市	0.32	堺市	0.37	堺市	0.31	堺市	0.27
泉州	0.32	泉州	0.46	泉州	0.78	泉州	0.51
大阪市北部	0.93	大阪市北部	0.54	大阪市北部	0.48	大阪市北部	0.52
大阪市西部	0.53	大阪市西部	0.34	大阪市西部	0.38	大阪市西部	0.43
大阪市東部	0.22	大阪市東部	0.46	大阪市東部	0.23	大阪市東部	0.28
大阪市南部	0.41	大阪市南部	0.55	大阪市南部	0.47	大阪市南部	0.32
府内平均	0.51	府内平均	0.51	府内平均	0.48	府内平均	0.43

#### 4) 感染症別・年齢別別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は1歳台、次いで5歳台、4歳台、6歳台と続く。1歳台の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。5歳台の報告数の多い疾患は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑であった。4歳台の報告数の多い疾患は、流行性耳下腺炎、6歳台の報告数の多い疾患は、水痘であった。

インフルエンザは、小児科定点に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、20歳以上の報告数が最多で、次が10歳から14歳台であった。小学校、中学校、職場など、集団生活を送る世代に多い疾患である。眼科定点疾患の流行性角結膜炎は20歳以上が多く、基幹定点疾患のマイコプラズマ肺炎は、10歳から14歳台が好発年齢であり、感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、1歳台が最多であった。

(文責：本村)

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20歳以上
RSウイルス感染症	1歳未満
咽頭結膜熱	1歳代
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳代
感染性胃腸炎	1歳代
水痘	6歳代
手足口病	1歳代
伝染性紅斑	5歳代
突発性発しん	1歳代
ヘルパンギーナ	1歳代
流行性耳下腺炎	4歳代
急性出血性結膜炎	20歳以上
流行性角結膜炎	20歳以上

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

2018年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	80,215	131,194	257,576	259,328	269,230	225,402	147,124	112,312	86,309	59,638	42,837	26,499	16,791
RSウイルス感染症	1,380	1,423	1,493	1,566	1,427	1,285	1,137	1,147	1,192	1,286	1,394	1,211	1,150
咽頭結膜熱	949	1,043	961	977	985	899	820	904	870	862	946	830	878
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3,463	5,958	8,370	7,986	8,263	8,322	6,646	8,405	8,234	8,329	8,497	7,192	6,532
感染性胃腸炎	10,537	16,706	19,554	16,205	16,210	14,992	12,826	15,233	15,310	15,825	15,860	14,027	14,274
水痘	1,436	1,205	895	921	799	738	695	676	657	827	764	944	851
手足口病	546	521	742	724	564	469	362	341	380	421	482	417	483
伝染性紅斑	145	268	311	251	223	180	168	198	206	180	196	194	254
突発性発しん	642	1,153	1,107	1,014	967	950	931	999	1,061	1,093	1,137	1,164	1,225
ヘルパンギーナ	52	53	79	57	53	55	29	43	37	36	42	37	42
流行性耳下腺炎	558	675	522	459	464	437	380	460	389	396	446	382	381
急性出血性結膜炎	5	9	5	5	11	8	8	10	8	9	15	10	18
流行性角結膜炎	426	569	508	398	450	410	361	420	415	370	377	371	439
細菌性髄膜炎	9	9	7	7	14	8	8	14	9	7	4	4	11
無菌性髄膜炎	8	16	14	8	6	13	9	11	5	8	16	7	15
マイコプラズマ肺炎	101	116	128	98	76	85	67	62	54	58	98	56	75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2	4	5	4	5	1	4	2	4	9	3	5	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	19	23	22	31	40	59	64	135	159	142	200	207	201

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	431	366	276	267	265	206	194	168	272	348	657	673	805
RSウイルス感染症	1,478	2,204	2,390	3,063	4,182	4,418	4,131	4,208	6,617	7,560	7,747	6,630	5,408
咽頭結膜熱	2,037	2,138	1,733	1,735	1,594	1,280	974	1,037	996	1,048	1,104	868	741
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7,309	7,018	4,963	4,960	4,536	3,660	2,568	3,479	3,783	4,185	4,340	3,711	3,916
感染性胃腸炎	15,838	14,917	12,167	12,726	12,160	10,263	7,737	10,236	11,235	11,789	11,578	9,940	9,494
水痘	1,224	850	891	792	721	663	621	708	558	704	696	683	735
手足口病	5,338	6,598	5,927	5,684	5,398	4,470	3,092	3,108	3,668	3,582	3,608	3,177	2,713
伝染性紅斑	1,029	1,067	819	771	921	726	571	991	1,002	1,092	1,002	890	884
突発性発しん	1,728	1,736	1,490	1,528	1,499	1,278	1,059	1,422	1,545	1,556	1,377	1,334	1,200
ヘルパンギーナ	4,654	7,624	7,831	9,741	9,865	7,836	4,558	4,900	5,360	5,236	4,589	3,273	2,678
流行性耳下腺炎	643	621	546	563	492	400	359	442	411	377	410	384	383
急性出血性結膜炎	14	14	9	12	9	3	2	8	5	6	6	5	3
流行性角結膜炎	646	645	560	658	768	598	574	757	705	655	745	716	712
細菌性髄膜炎	6	14	7	12	8	10	14	8	12	7	6	6	5
無菌性髄膜炎	11	24	30	19	31	23	22	25	17	14	26	22	18
マイコプラズマ肺炎	105	81	80	117	116	110	133	102	111	112	119	117	124
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	5	1	1	2	1	1	1	3	4	1	2		5
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	9	8	5	5	4	2	7	6	9	9	9	6	3

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
9,848	8,222	8,715	6,070	3,016	2,084	1,960	1,316	934	573	413	436	434
1,004	1,282	1,286	1,190	703	807	951	955	918	945	1,064	1,130	1,251
799	741	1,080	1,465	1,022	1,952	2,012	2,656	2,631	2,909	2,641	2,482	2,415
5,892	6,935	8,401	9,185	4,528	9,034	9,886	9,568	9,872	9,733	9,119	9,136	8,352
13,558	15,850	19,680	21,350	11,601	21,354	23,331	22,856	22,980	21,989	20,304	19,213	18,139
1,118	894	925	1,237	894	1,648	1,105	1,869	1,177	1,600	1,185	1,228	1,159
533	739	787	962	896	1,349	2,406	2,490	3,021	3,518	3,898	3,932	5,061
258	282	382	408	295	424	814	641	708	846	723	1,124	1,261
1,337	1,552	1,699	1,980	1,085	2,022	1,822	1,936	1,840	1,896	1,718	1,719	1,787
60	85	88	124	113	155	257	434	571	887	1,545	2,033	3,163
444	478	448	505	361	623	566	480	589	583	568	609	645
17	21	29	26	15	22	20	19	17	11	11	18	17
506	501	550	635	367	821	767	666	772	720	711	651	672
10	9	16	15	9	13	5	12	14	8	11	9	14
10	14	14	16	9	8	16	19	13	14	15	23	18
65	55	60	86	39	67	84	70	71	82	69	63	112
7	2	3	5	2	6	2	2	2		3	1	4
207	202	261	201	182	144	139	102	104	46	43	31	20

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
859	627	957	965	1,030	1,711	1,898	2,578	4,607	8,455	16,644	39,941	55,265	1,898,941
5,008	3,631	3,097	2,768	1,970	1,899	1,763	1,600	1,595	1,615	1,707	1,739	1,738	120,743
954	776	893	1,037	1,102	1,416	1,646	1,640	2,069	2,087	2,308	2,213	1,804	73,959
4,662	4,095	5,307	6,071	6,006	7,685	7,690	7,589	8,757	9,678	9,387	10,243	6,940	358,376
10,701	9,484	11,279	12,324	13,145	17,270	18,712	18,985	25,001	28,079	29,309	32,035	23,970	850,138
746	870	854	878	1,008	1,215	1,457	1,352	1,928	1,908	1,989	2,289	1,693	55,480
3,415	2,889	3,134	3,046	2,445	2,393	2,494	2,060	1,993	1,943	1,939	1,577	990	122,725
1,433	1,095	1,212	1,600	1,402	2,031	1,928	2,072	2,756	3,040	2,784	2,925	2,191	49,174
1,379	1,201	1,275	1,311	1,165	1,463	1,423	1,247	1,392	1,319	1,239	1,191	984	71,177
2,658	1,748	1,653	1,139	788	660	617	460	357	335	299	198	117	99,304
399	335	387	351	351	396	359	349	426	398	389	366	299	20,966
3	9	9	9	6	8		3	9	11	10	9	14	13,044
721	605	612	600	563	605	556	569	650	659	661	679	559	17,142
11	9	12	10	14	8	11	8	15	9	10	8	11	14,104
14	22	22	17	12	19	16	8	18	17	14	10	10	737
149	162	156	175	152	173	175	158	211	180	148	177	157	3,925
3	2	3	2	3	1	4	1	3	3		1	1	2,051
4	5	2	3	7	10	9	16	20	19	18	30	25	340

2018年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	16.34	26.51	52.07	52.37	54.37	45.58	29.72	22.69	17.43	12.05	8.66	5.35	3.40
RSウイルス感染症	0.44	0.45	0.47	0.50	0.45	0.41	0.36	0.36	0.38	0.41	0.44	0.38	0.36
咽頭結膜熱	0.30	0.33	0.30	0.31	0.31	0.28	0.26	0.29	0.28	0.27	0.30	0.26	0.28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.11	1.89	2.65	2.53	2.61	2.63	2.10	2.66	2.60	2.64	2.69	2.27	2.07
感染性胃腸炎	3.37	5.29	6.19	5.12	5.12	4.75	4.06	4.82	4.84	5.01	5.02	4.43	4.52
水痘	0.46	0.38	0.28	0.29	0.25	0.23	0.22	0.21	0.21	0.26	0.24	0.30	0.27
手足口病	0.17	0.16	0.23	0.23	0.18	0.15	0.11	0.11	0.12	0.13	0.15	0.13	0.15
伝染性紅斑	0.05	0.08	0.10	0.08	0.07	0.06	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.06	0.08
突発性発しん	0.21	0.36	0.35	0.32	0.31	0.30	0.29	0.32	0.34	0.35	0.36	0.37	0.39
ヘルパンギーナ	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
流行性耳下腺炎	0.18	0.21	0.17	0.15	0.15	0.14	0.12	0.15	0.12	0.13	0.14	0.12	0.12
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03
流行性角結膜炎	0.61	0.82	0.73	0.57	0.64	0.59	0.52	0.60	0.59	0.53	0.54	0.53	0.63
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.01	0.01	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.02	0.03	0.03	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.21	0.24	0.27	0.20	0.16	0.18	0.14	0.13	0.11	0.12	0.20	0.12	0.16
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.04	0.05	0.05	0.06	0.08	0.12	0.13	0.28	0.33	0.30	0.42	0.43	0.42

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.09	0.07	0.06	0.05	0.05	0.04	0.04	0.03	0.06	0.07	0.13	0.14	0.16
RSウイルス感染症	0.47	0.70	0.76	0.97	1.33	1.43	1.34	1.35	2.10	2.39	2.46	2.11	1.71
咽頭結膜熱	0.64	0.68	0.55	0.55	0.51	0.42	0.32	0.33	0.32	0.33	0.35	0.28	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.31	2.22	1.57	1.57	1.44	1.19	0.84	1.11	1.20	1.32	1.38	1.18	1.24
感染性胃腸炎	5.01	4.73	3.85	4.04	3.86	3.33	2.52	3.28	3.57	3.73	3.68	3.16	3.00
水痘	0.39	0.27	0.28	0.25	0.23	0.22	0.20	0.23	0.18	0.22	0.22	0.22	0.23
手足口病	1.69	2.09	1.88	1.80	1.71	1.45	1.01	0.99	1.17	1.13	1.15	1.01	0.86
伝染性紅斑	0.33	0.34	0.26	0.24	0.29	0.24	0.19	0.32	0.32	0.35	0.32	0.28	0.28
突発性発しん	0.55	0.55	0.47	0.48	0.48	0.42	0.34	0.46	0.49	0.49	0.44	0.42	0.38
ヘルパンギーナ	1.47	2.42	2.48	3.09	3.13	2.54	1.48	1.57	1.70	1.66	1.46	1.04	0.85
流行性耳下腺炎	0.20	0.20	0.17	0.18	0.16	0.13	0.12	0.14	0.13	0.12	0.13	0.12	0.12
急性出血性結膜炎	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00
流行性角結膜炎	0.93	0.93	0.81	0.95	1.10	0.88	0.84	1.10	1.01	0.94	1.07	1.03	1.02
細菌性髄膜炎	0.01	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
無菌性髄膜炎	0.02	0.05	0.06	0.04	0.06	0.05	0.05	0.05	0.04	0.03	0.05	0.05	0.04
マイコプラズマ肺炎	0.22	0.17	0.17	0.24	0.24	0.23	0.28	0.21	0.23	0.23	0.25	0.24	0.26
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
1.99	1.66	1.76	1.23	0.61	0.42	0.40	0.27	0.19	0.12	0.08	0.09	0.09
0.32	0.41	0.41	0.38	0.22	0.26	0.30	0.30	0.29	0.30	0.34	0.36	0.40
0.25	0.23	0.34	0.47	0.33	0.62	0.64	0.84	0.83	0.92	0.83	0.78	0.76
1.87	2.19	2.66	2.92	1.45	2.86	3.13	3.03	3.12	3.08	2.88	2.89	2.64
4.29	5.01	6.23	6.78	3.71	6.75	7.39	7.24	7.27	6.96	6.42	6.07	5.73
0.35	0.28	0.29	0.39	0.29	0.52	0.35	0.59	0.37	0.51	0.37	0.39	0.37
0.17	0.23	0.25	0.31	0.29	0.43	0.76	0.79	0.96	1.11	1.23	1.24	1.60
0.08	0.09	0.12	0.13	0.09	0.13	0.26	0.20	0.22	0.27	0.23	0.36	0.40
0.42	0.49	0.54	0.63	0.35	0.64	0.58	0.61	0.58	0.60	0.54	0.54	0.56
0.02	0.03	0.03	0.04	0.04	0.05	0.08	0.14	0.18	0.28	0.49	0.64	1.00
0.14	0.15	0.14	0.16	0.12	0.20	0.18	0.15	0.19	0.18	0.18	0.19	0.20
0.02	0.03	0.04	0.04	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02
0.72	0.72	0.79	0.91	0.53	1.17	1.10	0.95	1.10	1.03	1.02	0.93	0.96
0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03
0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.05	0.04
0.14	0.11	0.13	0.18	0.08	0.14	0.17	0.15	0.15	0.17	0.14	0.13	0.23
0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01
0.43	0.42	0.55	0.42	0.38	0.30	0.29	0.21	0.22	0.10	0.09	0.06	0.04

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.17	0.13	0.19	0.19	0.21	0.35	0.38	0.52	0.93	1.71	3.36	8.07	11.28	7.38
1.58	1.15	0.98	0.87	0.62	0.60	0.56	0.51	0.50	0.51	0.54	0.55	0.56	0.74
0.30	0.25	0.28	0.33	0.35	0.45	0.52	0.52	0.65	0.66	0.73	0.70	0.58	0.45
1.47	1.29	1.68	1.92	1.90	2.43	2.43	2.40	2.77	3.06	2.97	3.24	2.22	2.18
3.39	3.00	3.57	3.90	4.16	5.46	5.92	6.00	7.91	8.89	9.26	10.14	7.66	5.18
0.24	0.27	0.27	0.28	0.32	0.38	0.46	0.43	0.61	0.60	0.63	0.72	0.54	0.34
1.08	0.91	0.99	0.96	0.77	0.76	0.79	0.65	0.63	0.61	0.61	0.50	0.32	0.75
0.45	0.35	0.38	0.51	0.44	0.64	0.61	0.66	0.87	0.96	0.88	0.93	0.70	0.30
0.44	0.38	0.40	0.41	0.37	0.46	0.45	0.39	0.44	0.42	0.39	0.38	0.31	0.43
0.84	0.55	0.52	0.36	0.25	0.21	0.20	0.15	0.11	0.11	0.09	0.06	0.04	0.61
0.13	0.11	0.12	0.11	0.11	0.13	0.11	0.11	0.13	0.13	0.12	0.12	0.10	0.14
0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01
1.04	0.87	0.88	0.86	0.81	0.87	0.80	0.82	0.93	0.94	0.95	0.97	0.82	0.85
0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
0.03	0.05	0.05	0.04	0.02	0.04	0.03	0.02	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02	0.03
0.31	0.34	0.32	0.36	0.32	0.36	0.36	0.33	0.44	0.37	0.31	0.37	0.33	0.22
0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01
0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04	0.06	0.05	0.13

2018年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数													
インフルエンザ	304	304	304	304	304	304	304	305	305	306	306	306	304
小児科	198	198	198	198	198	198	198	199	199	200	200	200	198
眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ	3,982	6,553	13,467	12,915	13,720	11,668	7,951	6,193	4,611	3,086	1,885	962	580
RSウイルス感染症	187	170	129	125	124	106	100	111	109	116	113	90	70
咽頭結膜熱	34	50	40	43	26	44	39	39	41	48	41	44	53
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	162	309	415	373	368	376	334	381	457	398	390	381	344
感染性胃腸炎	586	961	1,142	1,064	957	973	903	1,030	1,001	1,020	1,064	967	1,025
水痘	87	73	49	32	50	35	42	57	44	81	54	81	69
手足口病	14	13	16	12	6	11	11	2	6	12	15	3	11
伝染性紅斑	11	13	12	12	12	10	5	10	7	12	4	3	11
突発性発しん	30	59	69	65	47	56	75	65	63	62	61	71	87
ヘルパンギーナ	4	6	6	4	6	4	4	3	5	4	4	5	1
流行性耳下腺炎	23	40	16	25	18	32	24	21	28	16	20	13	22
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	3	2	1	1	0	0	0	1
流行性角結膜炎	11	16	19	19	19	12	14	32	37	19	11	16	15
合計(RSウィー流行性角結)	1,149	1,711	1,913	1,774	1,633	1,662	1,553	1,752	1,799	1,788	1,777	1,674	1,709
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0
無菌性髄膜炎	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1
マイコプラズマ肺炎	1	4	2	2	0	4	2	3	2	1	1	1	1
クラミア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	2	0	2	3	4	3	4	7	5	12	9	9
合計(細菌性髄-ロタウイルス)	3	7	3	5	4	8	6	9	9	7	14	11	11

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数													
インフルエンザ	304	304	304	304	304	304	305	305	305	305	306	306	306
小児科	198	198	198	198	198	198	199	199	199	200	200	200	200
眼科	52	52	52	52	51	51	51	51	51	51	52	52	52
基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
インフルエンザ	5	6	5	4	10	13	5	5	12	15	47	40	45
RSウイルス感染症	122	184	230	302	413	439	353	338	558	697	671	604	504
咽頭結膜熱	108	159	106	86	98	89	61	93	89	54	75	71	56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	502	524	369	361	333	245	146	235	266	280	292	270	304
感染性胃腸炎	984	922	812	841	850	691	496	690	769	734	733	613	572
水痘	73	88	58	58	58	66	44	70	45	49	52	58	58
手足口病	201	280	217	262	286	209	135	146	166	144	138	161	142
伝染性紅斑	36	33	21	27	33	25	17	33	32	29	18	23	25
突発性発しん	110	112	119	92	104	77	61	104	101	100	88	83	65
ヘルパンギーナ	189	310	390	473	507	458	229	315	267	293	260	203	179
流行性耳下腺炎	27	40	23	26	22	19	20	41	25	24	29	26	21
急性出血性結膜炎	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	38	23	6	18	23	24	17	31	36	26	43	30	47
合計(RSウィー流行性角結)	2,392	2,675	2,351	2,546	2,727	2,342	1,579	2,096	2,354	2,430	2,399	2,142	1,973
細菌性髄膜炎	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	4	0
マイコプラズマ肺炎	5	2	3	6	7	4	5	7	3	2	4	5	8
クラミア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0
合計(細菌性髄-ロタウイルス)	6	4	5	7	8	4	6	8	6	4	6	10	8



I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
302	302	303	303	303	303	303	303	303	304	304	304	304
196	196	197	197	197	197	197	197	197	198	198	198	198
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
262	219	199	130	47	40	30	49	11	15	10	6	3
84	108	92	82	44	31	54	44	37	45	60	66	75
35	41	58	80	78	145	170	200	214	225	211	156	181
329	344	428	511	242	503	591	612	652	640	586	565	581
977	1,330	1,546	1,644	847	1,616	1,761	1,843	1,598	1,529	1,398	1,181	1,061
80	62	69	83	59	94	87	125	107	117	89	102	75
9	9	8	21	15	18	26	38	55	44	67	95	156
9	17	12	10	10	15	28	29	29	28	25	31	52
76	95	112	138	80	156	121	127	115	123	125	115	116
5	1	5	3	4	7	9	30	15	19	72	75	151
18	29	22	35	27	35	36	30	31	30	30	24	35
1	2	3	5	0	1	2	0	0	0	2	1	0
20	25	26	26	13	33	17	23	28	20	19	18	22
1,643	2,063	2,381	2,638	1,419	2,654	2,902	3,101	2,881	2,820	2,684	2,429	2,505
0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1
0	1	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0
2	2	1	1	0	0	3	0	2	4	1	0	5
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
14	14	27	14	11	14	3	7	4	3	2	1	1
16	17	30	15	14	14	8	7	8	9	3	1	7

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
306	306	306	306	306	305	303	303	303	303	303	303	303	15,819
200	200	200	200	200	200	199	199	199	199	199	199	199	10,323
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2,698
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	884
66	69	99	90	106	182	121	173	379	718	1,165	2,830	3,443	98,247
484	298	261	248	155	107	110	97	102	105	142	138	140	10,174
83	56	76	107	108	126	126	137	158	193	215	201	167	5,234
348	302	354	407	349	492	466	450	562	593	585	606	395	21,308
596	595	616	678	828	1,042	1,048	1,033	1,419	1,630	1,732	1,853	1,419	55,220
52	61	65	62	74	66	100	94	139	134	135	158	99	3,919
182	157	226	169	118	99	124	100	102	146	176	121	81	4,981
50	30	27	39	39	55	63	76	85	121	112	98	84	1,648
78	77	89	71	68	63	90	76	75	76	78	54	61	4,481
183	123	119	73	55	41	38	26	26	28	28	17	11	5,293
22	30	13	18	19	17	21	19	26	8	12	15	8	1,251
1	1	2	0	3	4	0	0	2	2	0	1	1	45
32	40	35	48	26	40	22	20	30	31	21	25	23	1,285
2,111	1,770	1,883	1,920	1,842	2,152	2,208	2,128	2,726	3,067	3,236	3,287	2,489	114,839
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	19
0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	26
2	6	3	4	5	4	4	2	8	7	6	4	4	165
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
1	1	0	0	0	1	1	6	10	7	10	9	11	239
3	7	4	5	6	5	6	9	19	14	16	13	16	451

2018年 感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

	1月					2月				3月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	
定点数	インフルエンザ	304	304	304	304	304	304	305	305	306	306	306	304	
	小児科	198	198	198	198	198	198	199	199	200	200	200	198	
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
	インフルエンザ	13.10	21.56	44.30	42.48	45.13	38.38	26.15	20.30	15.12	10.08	6.16	3.14	1.91
	RSウイルス感染症	0.94	0.86	0.65	0.63	0.63	0.54	0.51	0.56	0.55	0.58	0.57	0.45	0.35
	咽頭結膜熱	0.17	0.25	0.20	0.22	0.13	0.22	0.20	0.20	0.21	0.24	0.21	0.22	0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.82	1.56	2.10	1.88	1.86	1.90	1.69	1.91	2.30	1.99	1.95	1.91	1.74
	感染性胃腸炎	2.96	4.85	5.77	5.37	4.83	4.91	4.56	5.18	5.03	5.10	5.32	4.84	5.18
	水痘	0.44	0.37	0.25	0.16	0.25	0.18	0.21	0.29	0.22	0.41	0.27	0.41	0.35
	手足口病	0.07	0.07	0.08	0.06	0.03	0.06	0.06	0.01	0.03	0.06	0.08	0.02	0.06
	伝染性紅斑	0.06	0.07	0.06	0.06	0.06	0.05	0.03	0.05	0.04	0.06	0.02	0.02	0.06
	突発性発しん	0.15	0.30	0.35	0.33	0.24	0.28	0.38	0.33	0.32	0.31	0.31	0.36	0.44
	ヘルパンギーナ	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.01
	流行性耳下腺炎	0.12	0.20	0.08	0.13	0.09	0.16	0.12	0.11	0.14	0.08	0.10	0.07	0.11
	急性出血性結膜炎	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.06	0.04	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02
	流行性角結膜炎	0.21	0.31	0.37	0.37	0.37	0.23	0.27	0.62	0.71	0.37	0.21	0.31	0.29
	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
	無菌性髄膜炎	0.00	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06
	マイコプラズマ肺炎	0.06	0.24	0.12	0.12	0.00	0.24	0.12	0.18	0.12	0.06	0.06	0.06	0.06
	クラミア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.12	0.12	0.00	0.12	0.18	0.24	0.18	0.24	0.41	0.29	0.71	0.53	0.53

	7月					8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	
定点数	インフルエンザ	304	304	304	304	304	305	305	305	305	306	306	306	
	小児科	198	198	198	198	198	199	199	199	200	200	200	200	
	眼科	52	52	52	52	51	51	51	51	51	52	52	52	
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
	インフルエンザ	0.02	0.02	0.02	0.01	0.03	0.04	0.02	0.02	0.04	0.05	0.15	0.13	0.15
	RSウイルス感染症	0.62	0.93	1.16	1.53	2.09	2.22	1.77	1.70	2.80	3.49	3.36	3.02	2.52
	咽頭結膜熱	0.55	0.80	0.54	0.43	0.49	0.45	0.31	0.47	0.45	0.27	0.38	0.36	0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.54	2.65	1.86	1.82	1.68	1.24	0.73	1.18	1.34	1.40	1.46	1.35	1.52
	感染性胃腸炎	4.97	4.66	4.10	4.25	4.29	3.49	2.49	3.47	3.86	3.67	3.67	3.07	2.86
	水痘	0.37	0.44	0.29	0.29	0.29	0.33	0.22	0.35	0.23	0.25	0.26	0.29	0.29
	手足口病	1.02	1.41	1.10	1.32	1.44	1.06	0.68	0.73	0.83	0.72	0.69	0.81	0.71
	伝染性紅斑	0.18	0.17	0.11	0.14	0.17	0.13	0.09	0.17	0.16	0.15	0.09	0.12	0.13
	突発性発しん	0.56	0.57	0.60	0.46	0.53	0.39	0.31	0.52	0.51	0.50	0.44	0.42	0.33
	ヘルパンギーナ	0.95	1.57	1.97	2.39	2.56	2.31	1.15	1.58	1.34	1.47	1.30	1.02	0.90
	流行性耳下腺炎	0.14	0.20	0.12	0.13	0.11	0.10	0.10	0.21	0.13	0.12	0.15	0.13	0.11
	急性出血性結膜炎	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	0.73	0.44	0.12	0.35	0.45	0.47	0.33	0.61	0.71	0.51	0.83	0.58	0.90
	細菌性髄膜炎	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.12	0.06	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎	0.00	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.24	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.29	0.12	0.18	0.35	0.41	0.24	0.29	0.41	0.18	0.12	0.24	0.29	0.47
	クラミア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
302	302	303	303	303	303	303	303	303	304	304	304	304
196	196	197	197	197	197	197	197	197	198	198	198	198
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
0.87	0.73	0.66	0.43	0.16	0.13	0.10	0.16	0.04	0.05	0.03	0.02	0.01
0.43	0.55	0.47	0.42	0.22	0.16	0.27	0.22	0.19	0.23	0.30	0.33	0.38
0.18	0.21	0.29	0.41	0.40	0.74	0.86	1.02	1.09	1.14	1.07	0.79	0.91
1.68	1.76	2.17	2.59	1.23	2.55	3.00	3.11	3.31	3.23	2.96	2.85	2.93
4.98	6.79	7.85	8.35	4.30	8.20	8.94	9.36	8.11	7.72	7.06	5.96	5.36
0.41	0.32	0.35	0.42	0.30	0.48	0.44	0.63	0.54	0.59	0.45	0.52	0.38
0.05	0.05	0.04	0.11	0.08	0.09	0.13	0.19	0.28	0.22	0.34	0.48	0.79
0.05	0.09	0.06	0.05	0.05	0.08	0.14	0.15	0.15	0.14	0.13	0.16	0.26
0.39	0.48	0.57	0.70	0.41	0.79	0.61	0.64	0.58	0.62	0.63	0.58	0.59
0.03	0.01	0.03	0.02	0.02	0.04	0.05	0.15	0.08	0.10	0.36	0.38	0.76
0.09	0.15	0.11	0.18	0.14	0.18	0.18	0.15	0.16	0.15	0.15	0.12	0.18
0.02	0.04	0.06	0.10	0.00	0.02	0.04	0.00	0.00	0.00	0.04	0.02	0.00
0.38	0.48	0.50	0.50	0.25	0.63	0.33	0.44	0.54	0.38	0.37	0.35	0.42
0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.00	0.00	0.06
0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.12	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
0.12	0.12	0.06	0.06	0.00	0.00	0.18	0.00	0.12	0.24	0.06	0.00	0.29
0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
0.82	0.82	1.59	0.82	0.65	0.82	0.18	0.41	0.24	0.18	0.12	0.06	0.06

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
306	306	306	306	306	305	303	303	303	303	303	303	303	304
200	200	200	200	200	200	199	199	199	199	199	199	199	199
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
0.22	0.23	0.32	0.29	0.35	0.60	0.40	0.57	1.25	2.37	3.84	9.34	11.36	6.21
2.42	1.49	1.31	1.24	0.78	0.54	0.55	0.49	0.51	0.53	0.71	0.69	0.70	0.98
0.42	0.28	0.38	0.54	0.54	0.63	0.63	0.69	0.79	0.97	1.08	1.01	0.84	0.51
1.74	1.51	1.77	2.04	1.75	2.46	2.34	2.26	2.82	2.98	2.94	3.05	1.98	2.07
2.98	2.98	3.08	3.39	4.14	5.21	5.27	5.19	7.13	8.19	8.70	9.31	7.13	5.35
0.26	0.31	0.33	0.31	0.37	0.33	0.50	0.47	0.70	0.67	0.68	0.79	0.50	0.38
0.91	0.79	1.13	0.85	0.59	0.50	0.62	0.50	0.51	0.73	0.88	0.61	0.41	0.48
0.25	0.15	0.14	0.20	0.20	0.28	0.32	0.38	0.43	0.61	0.56	0.49	0.42	0.16
0.39	0.39	0.45	0.36	0.34	0.32	0.45	0.38	0.38	0.38	0.39	0.27	0.31	0.43
0.92	0.62	0.60	0.37	0.28	0.21	0.19	0.13	0.13	0.14	0.14	0.09	0.06	0.51
0.11	0.15	0.07	0.09	0.10	0.09	0.11	0.10	0.13	0.04	0.06	0.08	0.04	0.12
0.02	0.02	0.04	0.00	0.06	0.08	0.00	0.00	0.04	0.04	0.00	0.02	0.02	0.02
0.62	0.77	0.67	0.92	0.50	0.77	0.42	0.38	0.58	0.60	0.40	0.48	0.44	0.48
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.02
0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
0.12	0.35	0.18	0.24	0.29	0.24	0.24	0.12	0.47	0.41	0.35	0.24	0.24	0.19
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.35	0.59	0.41	0.59	0.53	0.65	0.27

2018年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

ブロック名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合計	
	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市北部	大阪市西部	大阪市東部	大阪市南部		
定点数	*1 インフルエンザ	1,843	1,300	2,228	1,612	1,248	1,488	1,761	1,040	780	1,144	1,375	15,819
	*2 小児科	1,175	884	1,404	1,040	832	968	1,085	728	520	780	907	10,323
	*3 眼科	260	208	306	260	208	260	312	260	104	312	208	2,698
	*4 基幹	104	104	104	104	52	104	104	52	52	52	52	884
疾病名	*1 インフルエンザ	8,799	6,935	14,401	10,154	10,745	8,499	11,053	7,668	7,439	5,827	6,727	98,247
	RSウイルス感染症	712	421	1,372	1,046	1,552	896	895	1,354	631	543	752	10,174
	咽頭結膜熱	433	320	1,002	822	386	360	496	391	175	355	494	5,234
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,387	1,405	2,768	2,197	2,471	2,288	2,579	1,210	977	856	2,170	21,308
	感染性胃腸炎	6,081	3,867	8,680	7,318	7,651	2,838	6,380	3,864	2,430	2,079	4,032	55,220
	水痘	411	272	770	496	405	219	475	282	229	191	169	3,919
	手足口病	504	248	1,074	549	313	303	840	348	196	177	429	4,981
	伝染性紅斑	334	298	200	258	176	59	73	71	60	46	73	1,648
	突発性発しん	403	254	795	640	473	260	550	379	223	219	285	4,481
	ヘルパンギーナ	430	397	1,420	381	510	312	346	674	275	174	374	5,293
*2	流行性耳下腺炎	62	43	217	218	145	83	99	120	149	69	46	1,251
	急性出血性結膜炎	1	1	0	2	2	11	18	8	1	1	0	45
*3	流行性角結膜炎	131	98	122	160	61	210	140	67	54	114	128	1,285
	合計	11,889	7,624	18,420	14,087	14,145	7,839	12,891	8,768	5,400	4,824	8,952	114,839
*4	細菌性髄膜炎	1	4	0	1	5	5	2	0	0	0	1	19
	無菌性髄膜炎	5	0	0	1	5	14	1	0	0	0	0	26
	マイコプラズマ肺炎	6	12	39	8	5	30	53	0	2	10	0	165
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	18	15	5	16	82	42	18	19	0	24	0	239
	合計{細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎(ロタウイルス)}	31	31	44	26	97	92	74	19	2	34	1	451
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	98	69	24	47	346	75	82	58	20	0	75	894
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	16	3	0	7	17	33	13	0	0	0	0	89
	薬剤耐性緑膿菌感染症	6	1	2	1	6	0	1	0	0	0	0	17
	合計 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性緑膿菌感染症)	120	73	26	55	369	108	96	58	20	0	75	1,000

2018年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

年齢区分 疾病名	6	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	30	40	50	60	合計
	ヶ月未 満	ヶ月未 満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳から 14歳	歳から 19歳	歳から 29歳	歳から 39歳	歳から 49歳	歳から 59歳	歳から	
*1 インフルエンザ	379	1,168	4,169	4,655	5,444	6,817	7,509	7,483	6,504	5,798	5,447	15,854	4,207	22,813					98,247
RSウイルス感染症	1,710	2,189	3,651	1,524	689	235	84	33	15	10	6	10	5	13					10,174
咽頭結膜熱	28	442	1,479	762	701	614	403	241	153	100	76	124	22	89					5,234
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	103	191	992	1,532	2,242	2,761	2,885	2,537	1,914	1,577	1,226	2,181	235	932					21,308
感染性胃腸炎	569	3,859	8,381	6,221	5,583	5,438	4,484	3,411	2,656	2,185	1,857	4,842	1,089	4,645					55,220
*2 水痘	41	103	253	220	298	431	482	500	493	385	252	397	25	39					3,919
手足口病	43	345	1,512	1,121	757	421	267	176	105	54	40	102	10	28					4,981
伝染性紅斑	1	12	82	122	193	233	293	218	174	125	86	95	0	14					1,648
突発性発しん	81	1,446	2,322	475	97	36	9	6	1	2	1	4	0	1					4,481
ヘルパンギーナ	51	521	1,563	1,112	672	523	294	179	94	51	40	64	8	121					5,293
流行性耳下腺炎	5	5	28	62	120	185	180	156	121	107	112	147	8	15					1,251
*3 急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	40					45
流行性角結膜炎	10	10	40	66	48	36	37	38	21	19	20	36	35	869					1,285
合計	2,642	9,123	20,303	13,217	11,400	10,914	9,419	7,495	5,747	4,615	3,716	8,003	1,439	6,806					114,839
*4 細菌性髄膜炎	6	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	2	0	1	1	3	19
無菌性髄膜炎	5	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	1	3	4	1	3	2	3	26
マイコプラズマ肺炎	0	1	8	8	11	24	10	16	9	10	11	29	4	7	8	4	0	5	165
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	14	12	52	38	29	20	21	14	24	3	6	2	2	1	0	0	0	1	239
合計 〔細菌性髄膜炎 -感染性胃腸炎(ロタウイルス)〕	25	13	62	46	40	46	31	34	34	13	18	32	10	14	9	8	3	13	451
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	39	13	11	5	8	6	11	8	2	12	2	8	12	23	25	48	53	608	894
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	5	23	6	2	1	2	0	3	0	0	0	1	1	2	1	38	89	
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	2	9	17
合計 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 -薬剤耐性緑膿菌感染症)	43	18	34	11	10	7	13	8	5	12	2	8	13	24	26	55	56	655	1,000

\*1 インフルエンザ定点把握疾患

\*2 小児科定点把握疾患

\*3 眼科定点把握疾患

\*4 基幹定点把握疾患

## 2. 各感染症状況報告

### 1) インフルエンザ定点把握疾患

#### ●インフルエンザ

2018年のインフルエンザの患者報告数は98,247例で、前年比24.9%増であった。定点あたりの報告数の年平均は6.21で、前年の4.92を上回った。

全国集計の同報告数は1,898,941例で、前年比17.6%増であった。定点あたりの報告数の年平均は7.38で、前年の6.27を上回った。

週別（月別）の定点あたり報告数においては、第1週（1月）の13.10に始まり、その後第10週（3月）まで警報レベルの10.00を超え、第14週（4月）に注意報レベルの1.00を下回る0.87となった。その後第48週（11月）に注意報レベル1.00を超える1.25となり、第52週（12月）には警報レベルを超える11.36となった。年間最高値は第5週（1月）の45.13、年間最低値は第26週（6月）・30週（7月）の0.01であった。

全国集計の同報告数においては、第1週（1月）の16.34に始まり、その後第10週（3月）まで警報レベルの10.00を超え、第18週（4月）に注意報レベルの1.00を下回る0.61となった。その後第49週（12月）に注意報レベル1.00を超える1.71となり、第52週（12月）には警報レベルを超える11.28となった。年間最高値は第5週（1月）の54.37、年間最低値は第34週（8月）の0.03であった。

年齢別患者発生数は、20歳以上が最も多く22,813例、以下10歳から14歳15,854例、5歳7,509例、6歳7,483例、4歳6,817例の順に多かった。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（14,401例）、⑦泉州（11,053例）、⑤南河内（10,745例）、④中河内（10,154例）、①豊能（8,799例）の順であった。

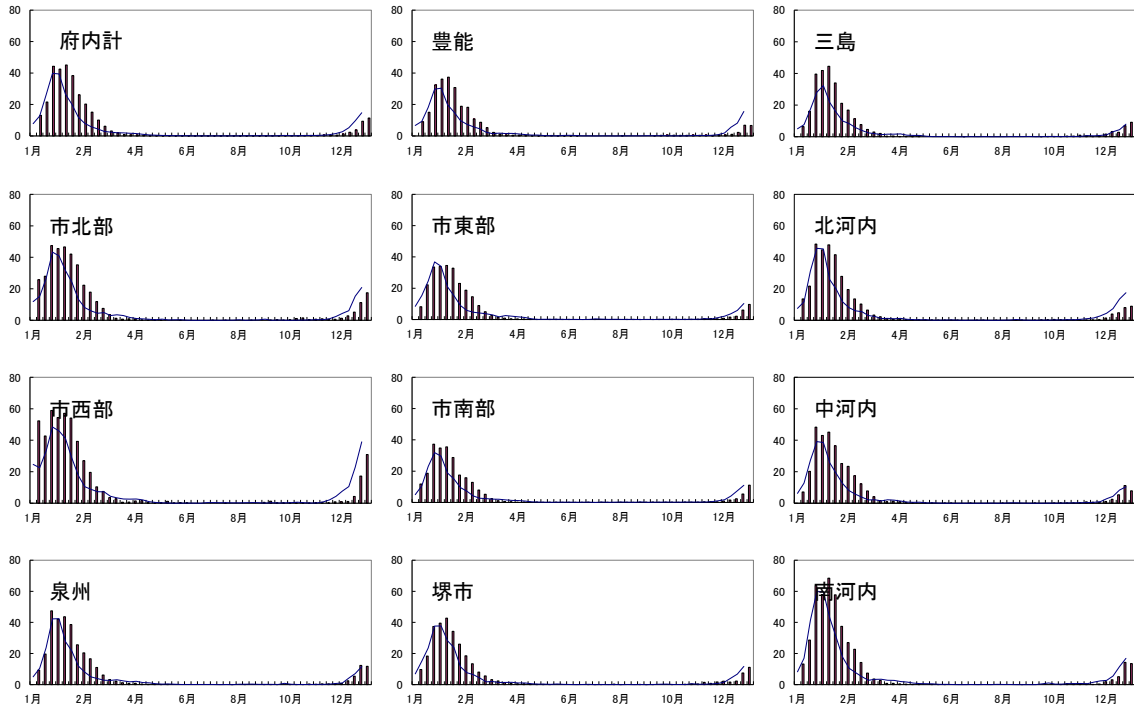
ブロック別定点あたり年平均報告数の上位5ブロックは、⑨大阪市西部（9.54）、⑤南河内（8.61）、⑧大阪市北部（7.37）、③北河内（6.45）、⑤南河内（6.30）の順であった。

ブロック別・週別定点あたり報告数の上位5ブロックは、⑤南河内（第5週、68.46）、⑩大阪市西部（第3週、58.93）、③北河内（第3週、48.37）、④中河内（第3週、48.29）、⑦泉州（第3週、47.41）の順であった。

病原体定点医療機関からのインフルエンザ検体の提出数は555で、そのうちの405検体（73.0%）からウイルスが検出された。このうち検出されたインフルエンザウイルスの型・亜型数は、AH1pdm09が96例、AH3が131例、B/Yamagata系統が136例、B/Victoria系統が5例、C型が1例、およびA亜型不明が1例であった。（文責：久保）

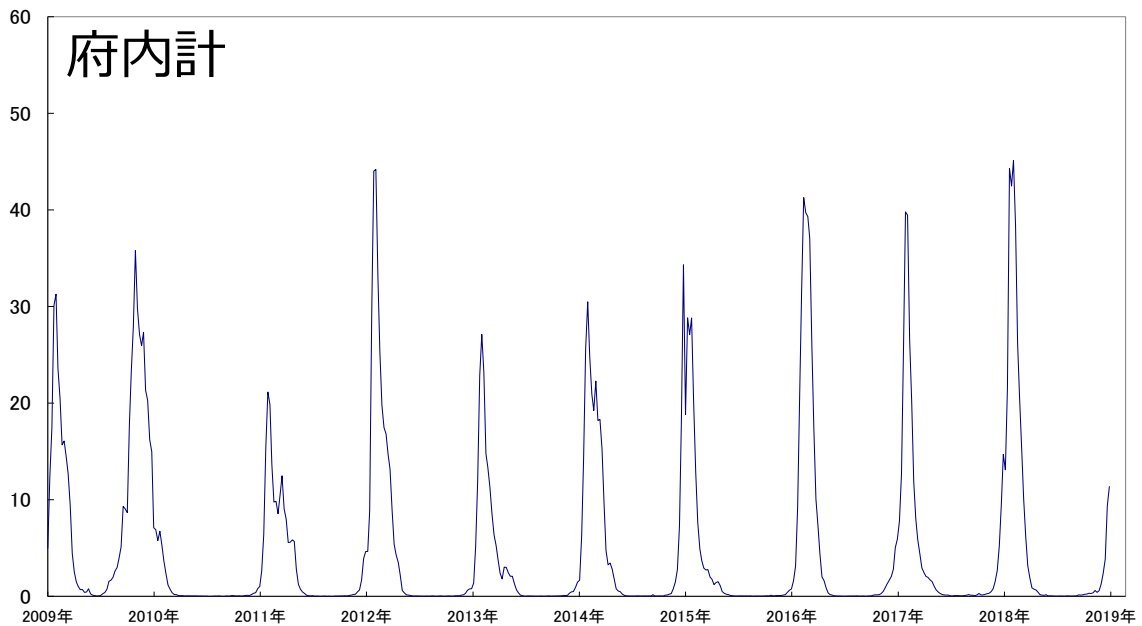
# インフルエンザ

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたりインフルエンザ報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

## 2) 小児科定点把握疾患

### ●RS ウイルス感染症

2018 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 10,174 例で、前年比 12.9%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 8.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.98 で、順位は第 3 位であった。

全国集計においては 120,743 例の報告で、前年比 13.5%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 6.5%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.74 で、順位は第 5 位であった。

週別（月別）の定点あたり報告数は、第 1 週（1 月）0.94 に始まり、その後漸減して第 19 週（5 月）に年間最低値の 0.16 となった。その後第 23 週（6 月）より増加し始め、第 29 週（7 月）から第 43 週（10 月）まで 1.00 を超えた。年間最高値は、第 36 週（9 月）の 3.49 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）0.44 に始まり、その後漸減傾向を示して第 18 週（4 月）に年間最低値の 0.22 となった。その後第 23 週（6 月）より増加し始め、第 31 週（7 月）から第 41 週（10 月）まで 1.00 を超えた。年間最高値は、第 37 週（9 月）の 2.46 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 3,651 例が最も多く、以下 12 ヶ月未満児 2,189 例、6 ヶ月未満児 1,710 例、2 歳児 1,524 例と続き、0 歳児から 2 歳児で全体の 89.2%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（1,552 例）、③北河内（1,372 例）、⑧大阪市北部（1,354 例）、④中河内（1,046 例）、⑦堺市（896 例）であった。

ブロック別定点あたり年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（1.87）、⑧大阪市北部（1.86）、⑨大阪市西部（1.21）、④中河内（1.01）、③北河内（0.98）であった。

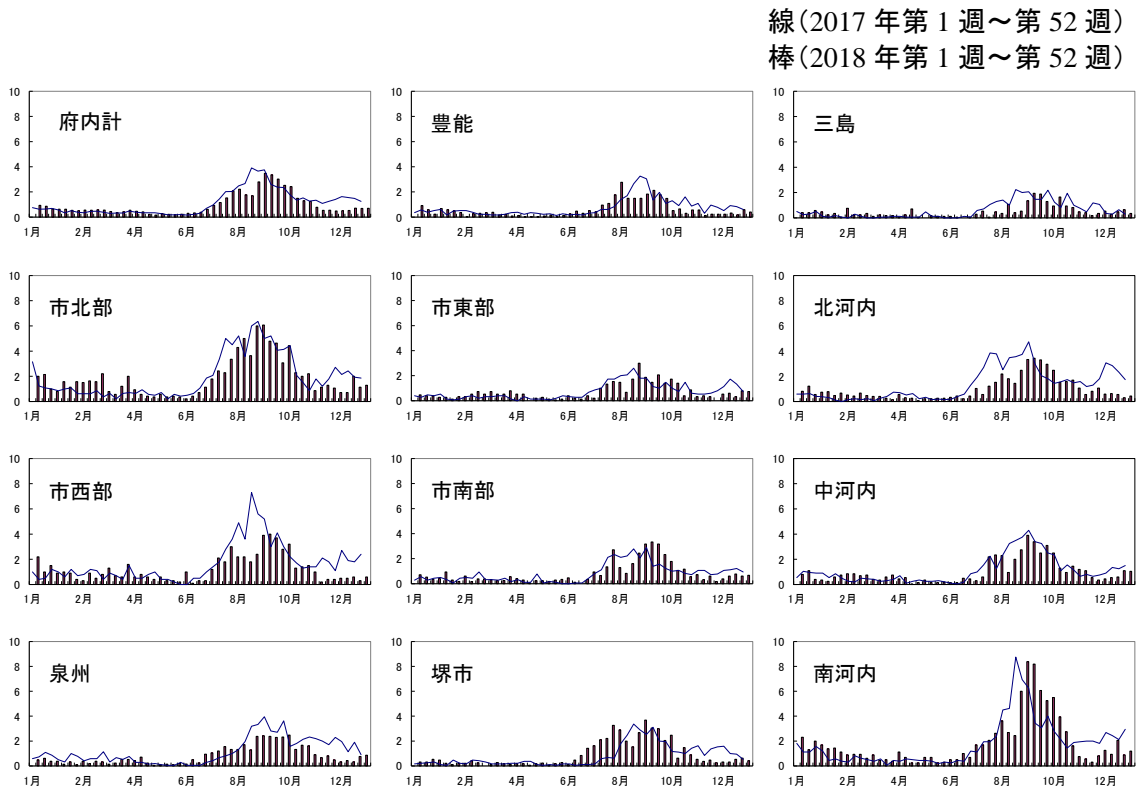
ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 36 週、8.38）、⑧大阪市北部（第 36 週、6.07）、⑨大阪市西部（第 37 週、4.00）、⑤中河内（第 36 週、3.90）、⑦堺市（第 36 週、3.68）の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出数は 86 で、そのうちの 60 検体（69.8%）が陽性となり、RSB が 29 例、RSA が 14 例、Rhino\_unttype が 7 例、ECHO11 が 3 例、CA4、EV-D68、hMPV が各 2 例、CA9、HCoV-HKU1、HPeV3、PIV3、SapoG5 が各 1 例であった。

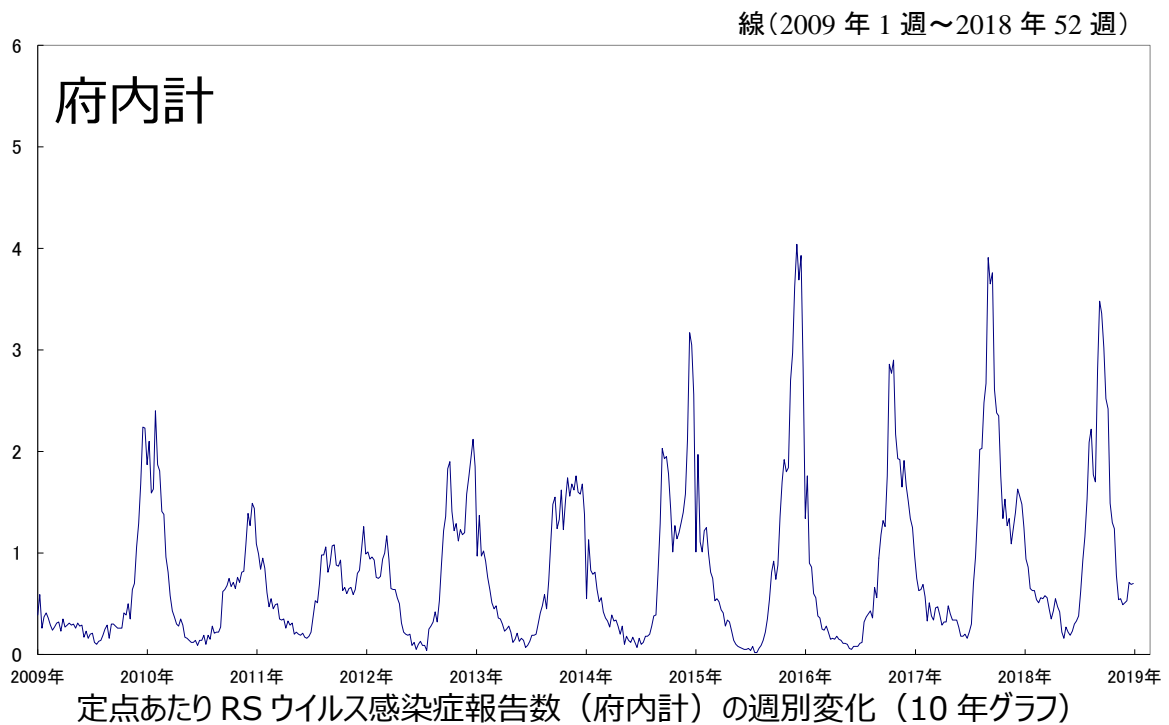
（文責：久保）



## RS ウイルス感染症



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化



## ●咽頭結膜熱

2018 年の咽頭結膜熱の患者報告数は 5,234 例で、前年比 0.5%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.6%を占めた。過去 10 年では、2014 年に次いで 2 番目に多かった。定点あたりの報告数の年平均は 0.51 で、順位は第 4 位であった。

全国集計では 73,959 例の報告で、前年比 19.8%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 4.0%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.45 で、順位は第 7 位であった。

週別（月別）の定点あたり報告数においては、第 19 週（5 月）から第 26 週（6 月）、第 28 週（7 月）、および第 48 週（11 月）から第 52 週（12 月）に 0.70 を超え、年間最高値は第 23 週（6 月）の 1.14、また、年間最低値は第 5 週（1 月）の 0.13 であった。

全国集計の同報告数においては、第 21 週（5 月）から第 26 週（6 月）、および第 50・51 週（12 月）に 0.70 を超え、年間最高値は第 23 週（6 月）の 0.92、また、年間最低値は第 15 週（4 月）および第 39 週（9 月）の 0.23 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 1,479 例が最も多く、以下 2 歳児 762 例、3 歳児 701 例、4 歳児 614 例、12 ケ月未満児 442 例と続き、これらが全体の 76.4%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（1,002 例）、④中河内（822 例）、⑦泉州（496 例）、⑪大阪市南部（494 例）、①豊能（433 例）の順であった。

ブロック別定点あたり年平均報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（0.79）、③北河内（0.71）、⑪大阪市南部（0.55）、⑧大阪市北部（0.54）、⑤南河内・⑦泉州・⑩大阪市東部（0.46）の順であった。

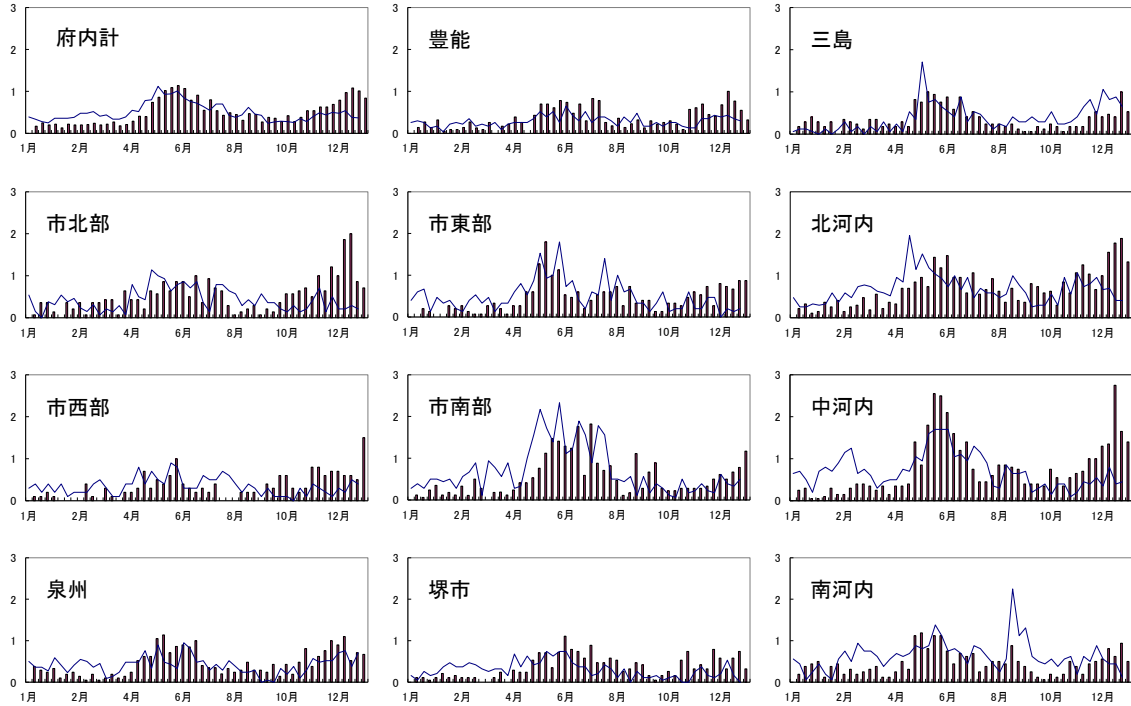
ブロック別・週別定点あたり報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（第 50 週、2.75）、⑧大阪市北部（第 50 週、2.00）、③北河内（第 51 週、1.89）、⑪大阪市南部（第 28 週、1.82）、⑩大阪市東部（第 21 週、1.80）の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出数は 41 で、そのうちの 33 検体（80.5%）が陽性となり、Ad2 が 11 例、Ad3 が 8 例、Ad1 が 4 例、Ad5 が 3 例、Ad54、Rhino\_untype が各 2 例、Ad4、ECHO11、PIV4、RSB が各 1 例であった。

（文責：久保）

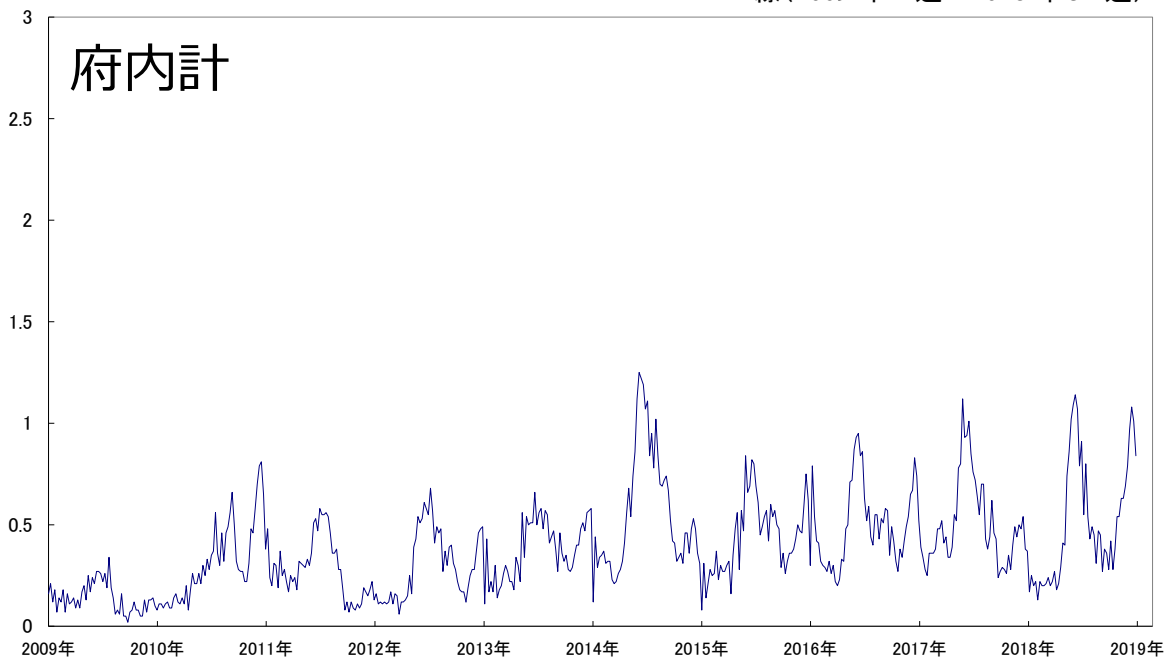
咽頭結膜熱

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

## ●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2018年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は21,308例で、前年比1.3%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の18.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は2.07で、順位は第2位であった。

全国集計では358,376例の報告で、前年比2.4%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の19.3%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は2.18で、順位は第2位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第1週（1月）および第33週（8月）を除いて通年1.00以上で、第20週（5月）から第23週（6月）にかけてと第51週に3.0を超えており、年間最高値は第22週（5月）の3.31であった。5月から6月と12月にピークが認められた。

全国集計では、第33週（8月）を除いて通年1.00以上で、第20週（5月）から第23週（6月）にかけてと、第49週（12月）、第51週（12月）に3.0を超えており、年間最高値は第51週（12月）の3.24であった。5月から6月と12月にピークが認められた。

年齢別患者報告数は、5歳の2,885例が最も多く、以下4歳2,761例、6歳2,537例、3歳2,242例と続き、3歳児から6歳児で全体の48.9%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（2,768例）、⑦泉州（2,579例）、⑤南河内（2,471例）、①豊能（2,387例）、⑥堺市（2,288例）の順であった。

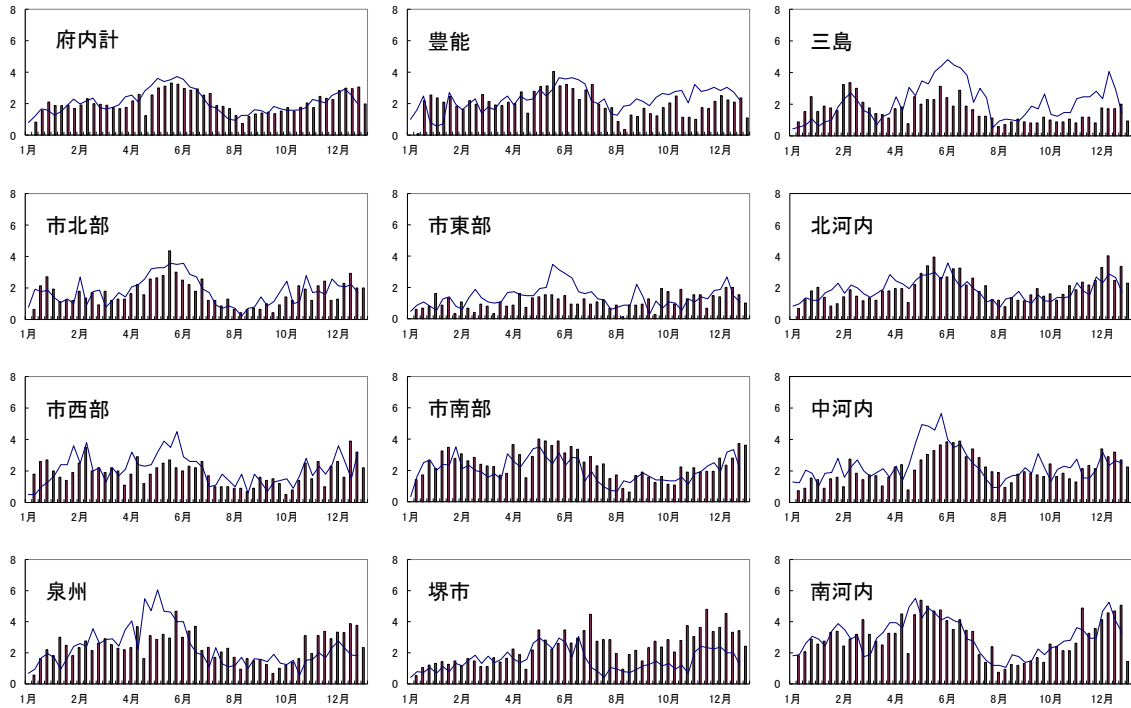
ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、⑤南河内（2.97）、⑪大阪府南部（2.40）、⑦泉州（2.38）、⑥堺市（2.36）、④中河内（2.11）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、⑤南河内（第20週、5.38）、⑤南河内（第51週、5.06）、⑤南河内（第21週、5.00）、⑤南河内（第45週、4.88）、⑥堺市（第46週、4.79）の順であった。

（文責：富吉）

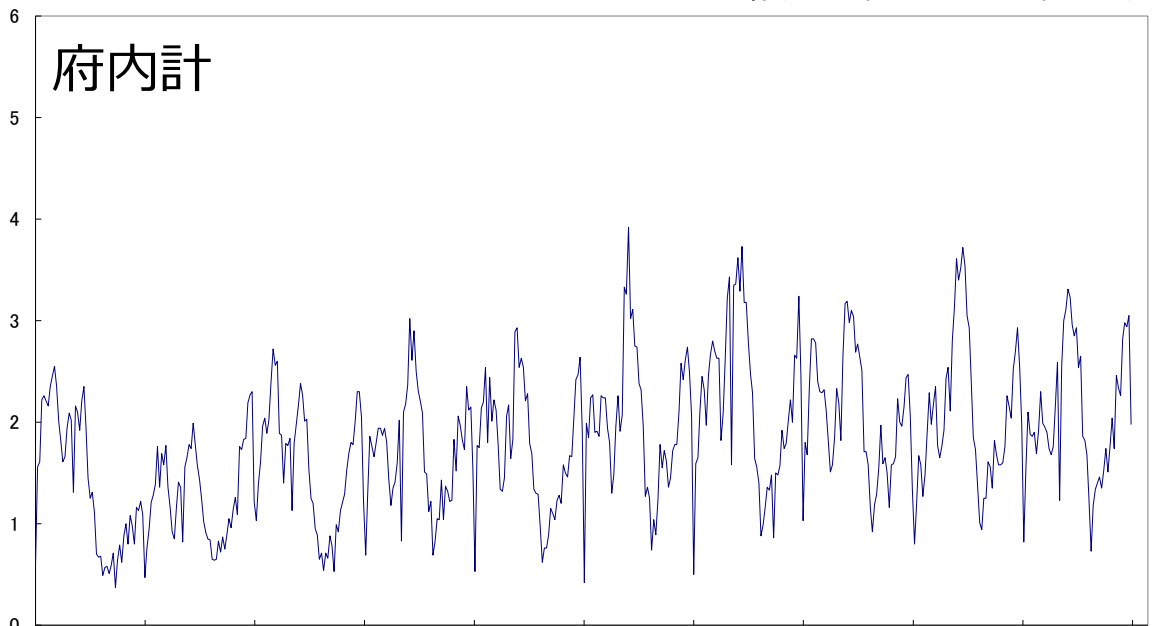
## A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたりA 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

## ●感染性胃腸炎

2018年の感染性胃腸炎の報告数は55,220例で、前年より1,571例、2.9%増加した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の48.1%を占め、第1位であった。定点あたり報告数の年平均は5.35で、前年5.16より3.7%の増加であり、過去10年でみると最低値であった前年5.16に次いで2番目に低値であった。全国集計では報告数850,138例で、前年より2.5%減少し、総報告数の45.9%を占めた。定点あたり報告数は年平均5.18と前年5.31より2.4%減少し、過去10年では2009年の5.09に次いで2番目に低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週2.96から増減を繰り返しながら増加し、第21週に年間最高値9.36に達した。その後は減少し、第33週に年間最低値である2.49になった。その後、第44週まで2.86~4.14の間で増減しながら増加し、第45週5.21から再び急激に増加し第51週に9.31に達した。全国集計では、第1週3.37から増減を繰り返しながら増加し第20週に7.39となった後減少に転じ、第33週に年間最低値である2.52となった。第41週3.00から増加傾向となり第51週で年間最高値である10.14となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、5月、12月、6月、4月、11月、3月の順で高かった。春から初夏に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋に再び増加し、冬にピークを持つ流行曲線は例年と同様であった。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値20.0を超えたブロックは⑤南河内の第17週20.56のみであった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内9.20、④中河内7.04、③北河内6.18、⑦泉州5.88、⑧大阪市北部5.31、①豊能5.18、⑨大阪市西部4.67、⑩大阪市南部4.46、②三島4.37、⑥堺市2.94、⑩大阪市東部2.67の順であった。

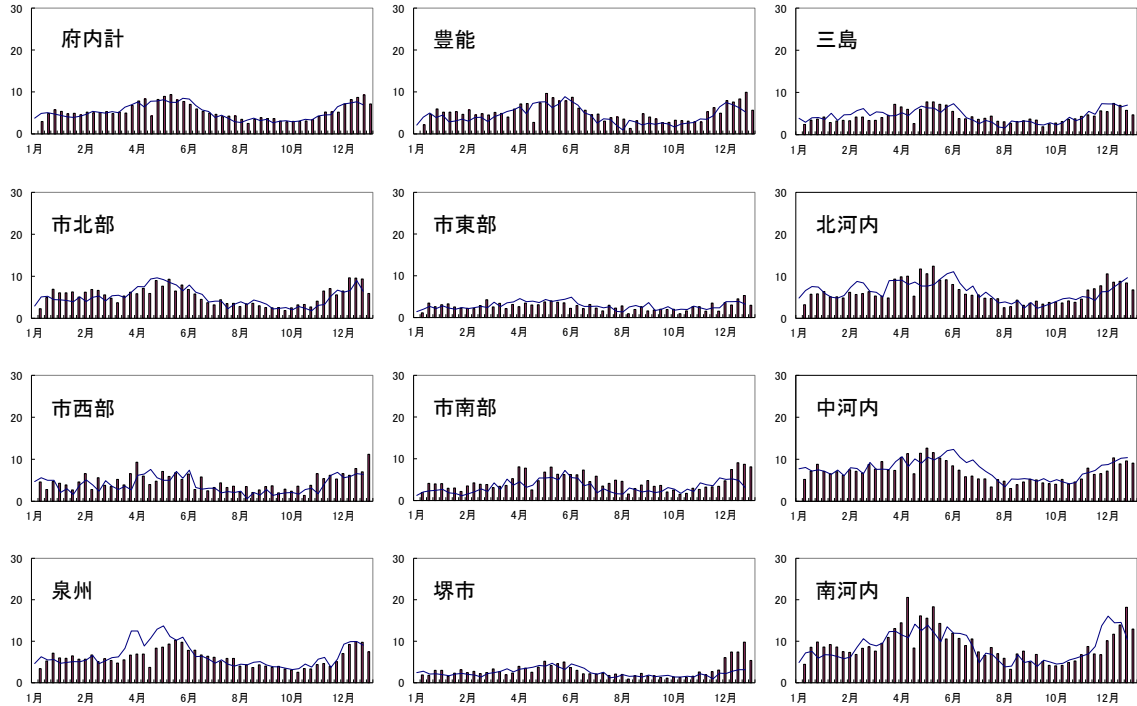
年齢別報告数(0~9歳)は、1歳、2歳、3歳、4歳、5歳、0歳、6歳、7歳、8歳、9歳の順に多かった。0~4歳の報告数は30,051例で全体の54.4%を占めた。5~9歳が14,593例(26.4%)、10~14歳が4,842例(8.8%)、15歳以上が5,734例(10.4%)で、各年齢の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。

ウイルス検出は203検体のうち陽性だったのは112検体で、陽性率55.2%であった。病原体別でみると、ノロウイルス49件(陽性検体の43.8%、うちノロウイルスGII.4が20件)、アデノウイルスが21件(陽性検体の18.8%)、A群ロタウイルス19件(陽性検体の17.0%)、サポウイルス10件(陽性検体の8.9%)、アストロウイルス9件(陽性検体の8.0%)等であった。

(文責：吉田)

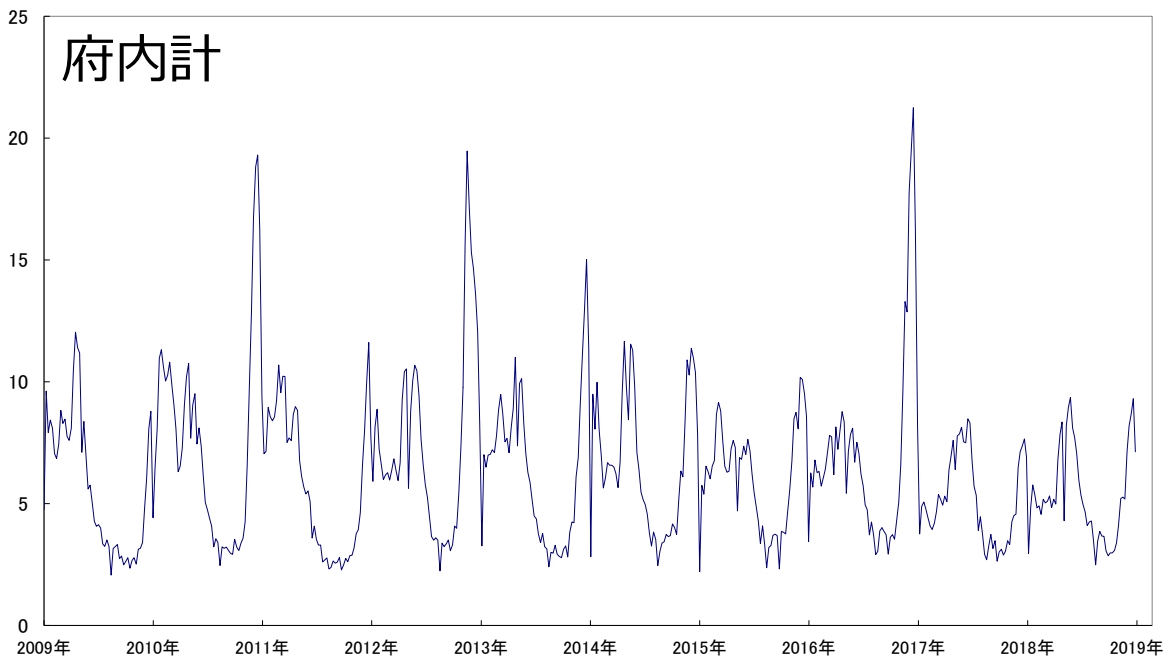
感染性胃腸炎

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたり感染性胃腸炎報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

## ●水痘

2018 年の水痘の報告数は 3,919 例で、前年 4,037 例より 118 例、2.9%減少した。小児科・眼科定点報告対象 12 疾患総報告数の 3.4%を占め、第 8 位であった。2008 年～2010 年は第 2～3 位であったが、2011 年～2014 年は第 3～4 位、2015 年は第 5 位であり、2016 年以降は 8～9 位と年々減少している。定点あたり報告数の年平均は 0.38 で、前年 0.39 よりさらに 2.6%減少した。全国集計では報告数 55,480 例で前年 60,162 例より 4,682 例、7.8%減少した。総報告数の 3.0%を占め、定点あたり報告数は年平均 0.34 と前年 0.37 より 8.1%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第 1 週 0.44 から減少し第 4 週には年間最低値である 0.16 となった。その後小刻みな増減を繰り返しながら増加し、第 21 週に 0.63 に達した。以後、再び減少傾向となり第 33 週に 0.22 まで減少した後、増加傾向となり、第 51 週に年間最高値である 0.79 となった。全国集計では、第 1 週 0.46 から第 8 週、9 週に 0.21 まで減少した後、増減を繰り返しながら増加し第 21 週に 0.59 となった。その後は小刻みに増減しながら減少し、第 35 週に年間最低値である 0.18 となった後、再び増加傾向となり、第 51 週で年間最高値である 0.72 に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12 月、5 月、11 月、6 月、3 月および 4 月（同値）、7 月、10 月、1 月、8 月、9 月、2 月の順で高かった。冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとる流行曲線は例年通りであった。定点あたり報告数の年平均値は、前年より低下し、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった 1999 年以降の 20 年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、③北河内 0.55、⑤南河内 0.49、④中河内 0.48、⑦泉州および⑨大阪市西部 0.44、⑧大阪市北部 0.39、①豊能 0.35、②三島 0.31、⑩大阪市東部 0.24、⑥堺市 0.23、⑪大阪市南部 0.19 の順であった。

年齢別報告数（0～9 歳）は、6 歳、7 歳、5 歳、4 歳、8 歳、3 歳、1 歳、9 歳、2 歳、0 歳の順に多かった。0～4 歳の報告数は 1,346 例で全体の 34.3%を占めており、2014 年 10 月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、経年的に報告数および全体に占める割合が大きく低下した。一方で 5～9 歳の報告数は 2,112 例で全体の 53.9%、10～14 歳の報告数は 397 例で全体の 10.1%であり、経年的に報告数は横ばいからやや増加している。全体に占める割合も前年（各々 48.9%、7.5%）より増加し、経年的にみても増加傾向であった。15 歳以上は 64 例（1.6%）であり、前年 1.4%とほぼ同じ割合であった。

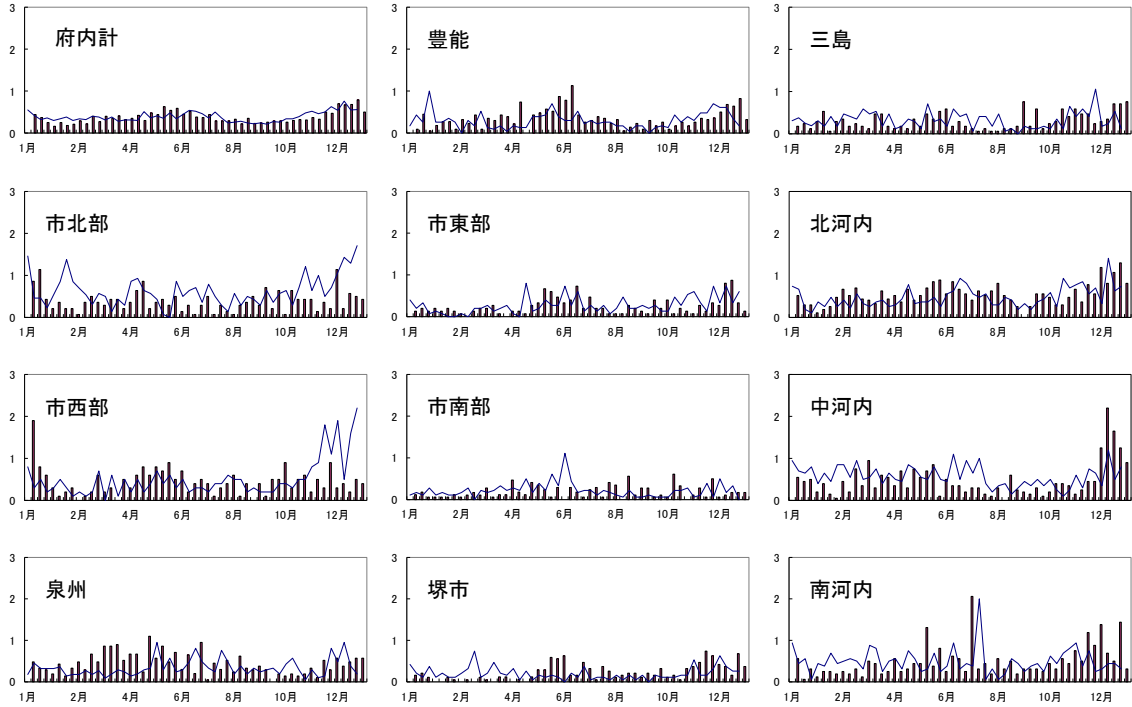
咽頭拭い液 5 検体中 3 件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

（文責：吉田）



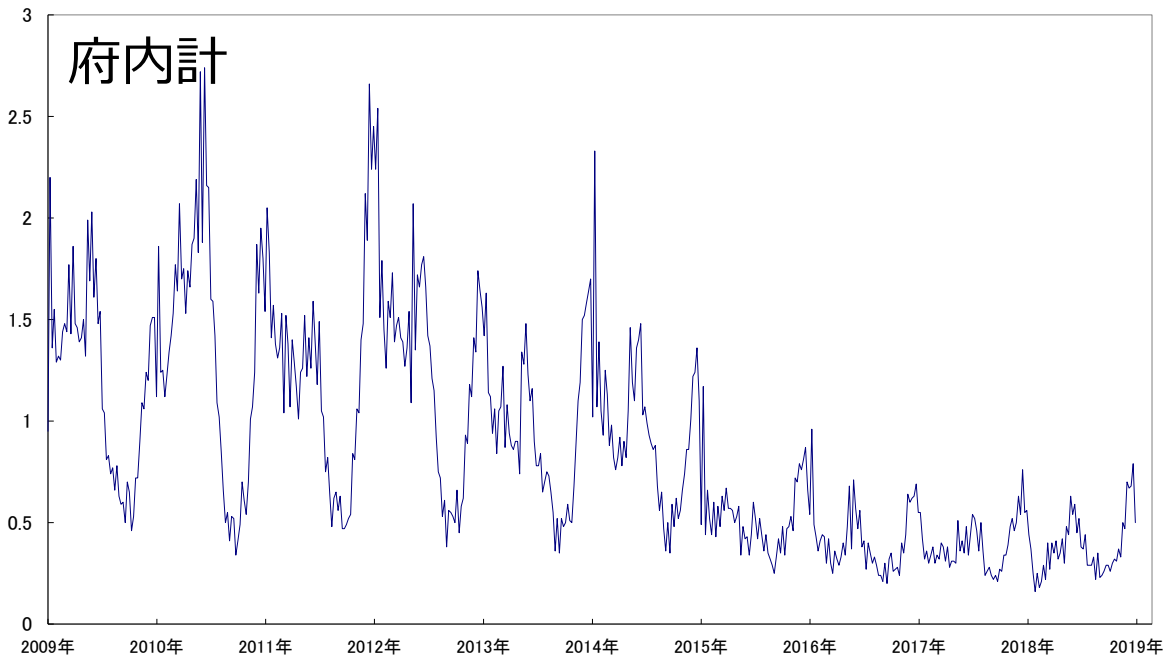
水痘

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別変化（10年クラフ）

●手足口病

手足口病 (hand, foot, and mouth disease : HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。日本国内では主に春から夏にかけて流行する感染症であり、例年 7 月の中旬か下旬が流行のピークとなり、8 月以降患者発生数は減少していく、という経過を辿る。病原ウイルスは主にコクサッキーA16 (CA16)、エンテロウイルス 71 (EV71) であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキーA6 (CA6) を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それにともなって CA6 の検出割合が増加してきている。

従来より、手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2~3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。また、これまでの手足口病とは異なり、39℃以上の高熱をきたすこともしばしば認められている。

2018 年の大阪府の小児科定点医療機関からの手足口病の累積報告数は 4,981 (定点当たり累積報告数 25.16 ; 以上暫定値) であり、前年 2017 年の累積報告数 22,315 (定点当たり累積報告数 112.14) よりも大幅に減少した。また、定点当たり累積報告数は 2018 年の全国平均値 38.92 よりも低い値であった。

2018 年の手足口病の報告数のピークは、大阪府は第 31 週 (定点当たり報告数 1.44) であり、全国平均のピーク値 (第 28 週、2.09) よりも低く (図 2)、前年 (2017 年) の大阪府のピーク値 (第 28 週、定点当たり報告数 14.37) を大幅に下回っていた。

大阪府が上記の流行のピークを迎えた第 31 週のブロック別の定点当たり報告数をみると、北河内 2.96、泉州 2.48、大阪市南部 1.59、豊能 1.50、大阪市西部 1.30 の順であった。

2018 年に手足口病と診断された患者由来検体から検出されたウイルス株数 (暫定値) は全国で 1,070 であり、EV71 29.8%、CA16 23.2%、CA6 9.3%、CA10 1.4% の順となっている。一方、大阪府で検出されたウイルス株数は 40 であり、CA16 25.0%、EV71 15.0%、CA6 5.0%、CA10 2.5%であった (図 2)。

CA6 が流行の中心となる年は手足口病の患者数が増加して大きな流行となっており、2011 年以降 CA6 の流行年は 1 年おきに現れている。2018 年は CA6 の流行年ではなく、検出ウイルスは全国、大阪府ともに CA16、EV71 が多数を占めていて、CA6 の流行年であった 2017 年よりも患者数は大幅に減少した。一方、2019 年は CA6 が流行の中心となって、患者数も 2018 年よりも大きく増加することが予想される。 (文責 : 安井)

図 1 2018 年の手足口病定点当たり報告数週別推移

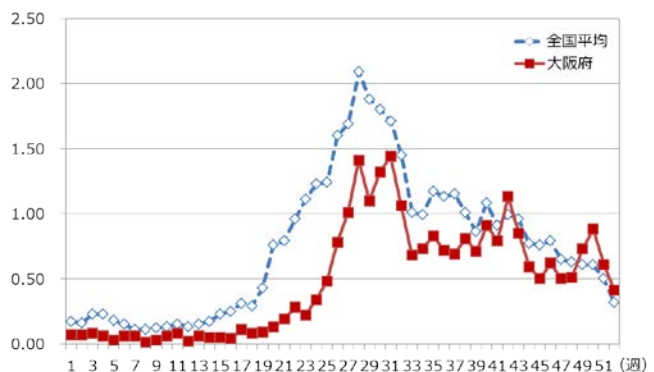
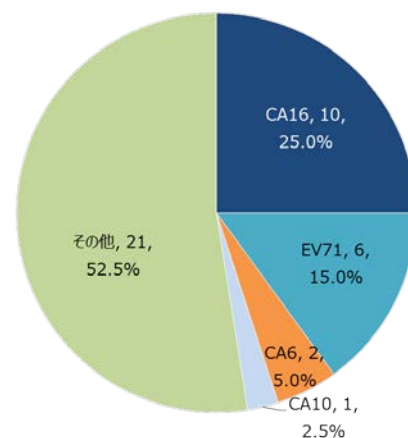
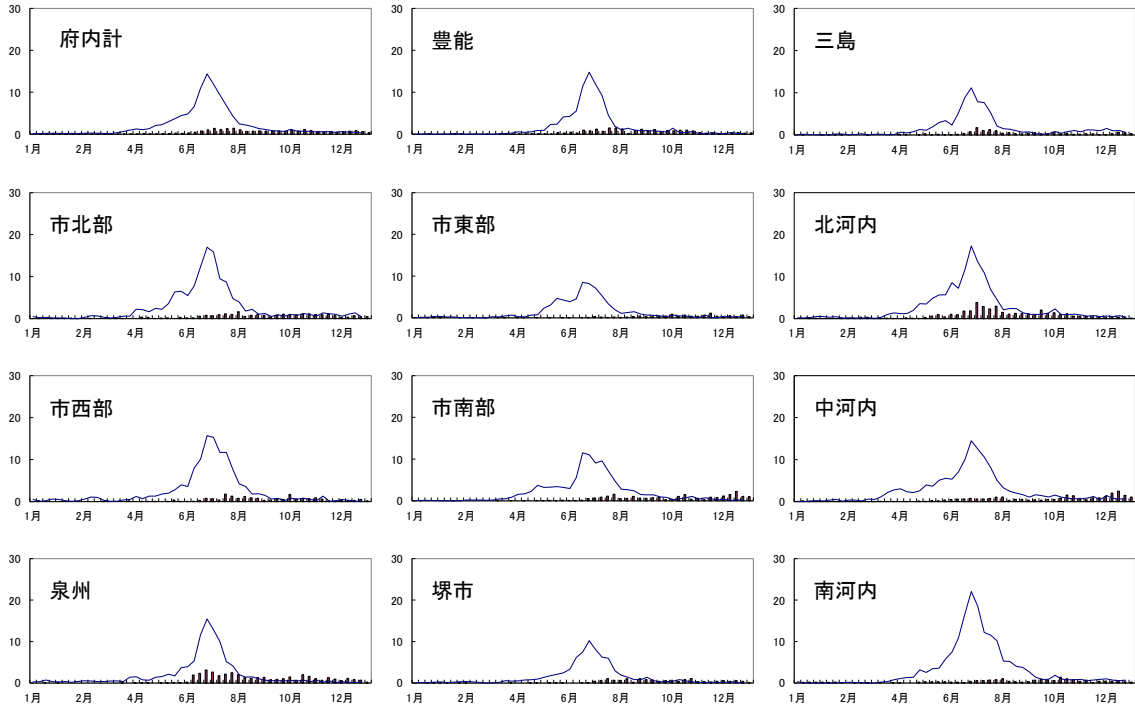


図 2 大阪府の手足口病患者由来ウイルスの検出状況 (2018 年、総検出数 40)



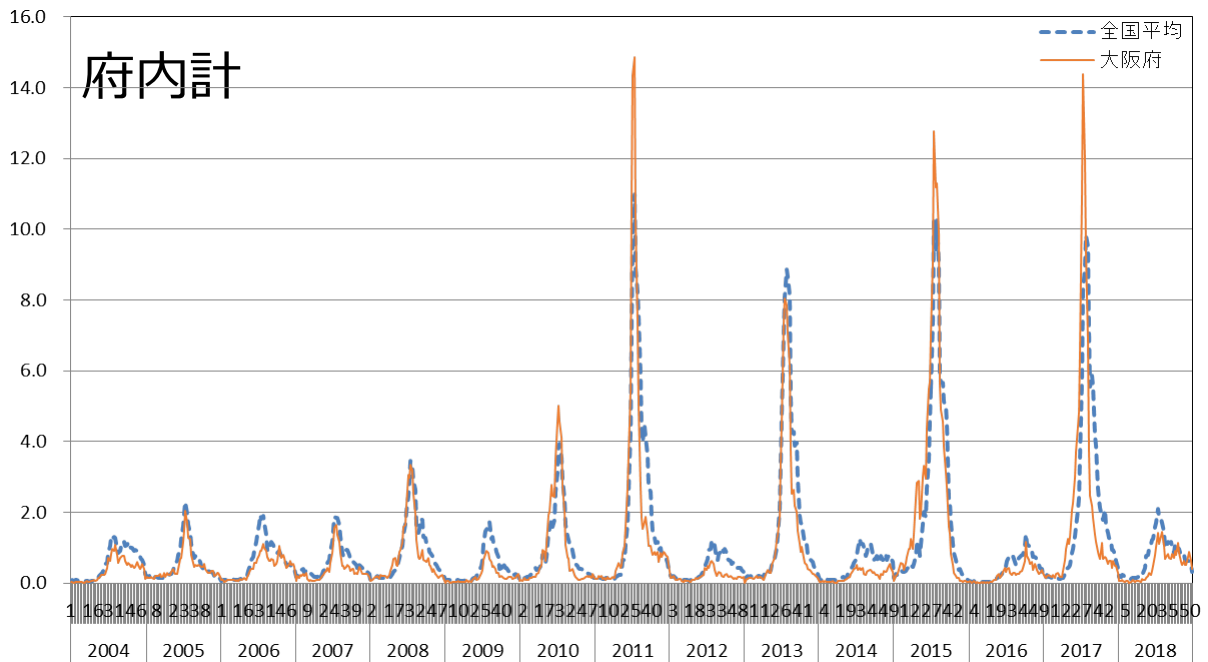
手足口病

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2004年1週～2018年52週)



定点あたり手足口病報告数（府内計）の週別変化（15年グラフ）

## ●伝染性紅斑

2018年の伝染性紅斑の報告数は1,648例で、前年の523例より1,125例、215.1%増加した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の1.4%を占め、第9位であった。定点当たり報告数の年平均は0.16で、前年0.05より220.0%の増加であった。全国集計では報告数49,174例で前年12,436例より295.4%増加し、総報告数の2.7%を占めた。定点あたり報告数は年平均0.30と前年0.08より275.0%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週0.06から第11週、12週の0.02（年間最小値）まで小刻みな増減を繰り返しながら減少し、その後、第26週0.26まで増加した。その後は第37週0.09まで減少した後、再度増加し、第49週に年間最高値である0.61に達した。全国集計では、第1週から第17週まで小刻みな増減を繰り返しながら、0.05から0.13の範囲で推移し、第18週0.09から増加傾向となり、第26週0.40に達した後減少し、第33週0.19となった。その後再び増減を繰り返しながら増加し、第49週に年間最高値である0.96に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12月、11月、10月、6月、7月、5月および8月、9月、1月および4月、2月および3月の順で多かった。春から夏にかけて増加する流行曲線は例年と同じ傾向であったが、本年は昨年と同様に、秋から冬にかけても再度増加がみられ、春から夏にかけての定点あたり報告数を上回る流行曲線を示した。

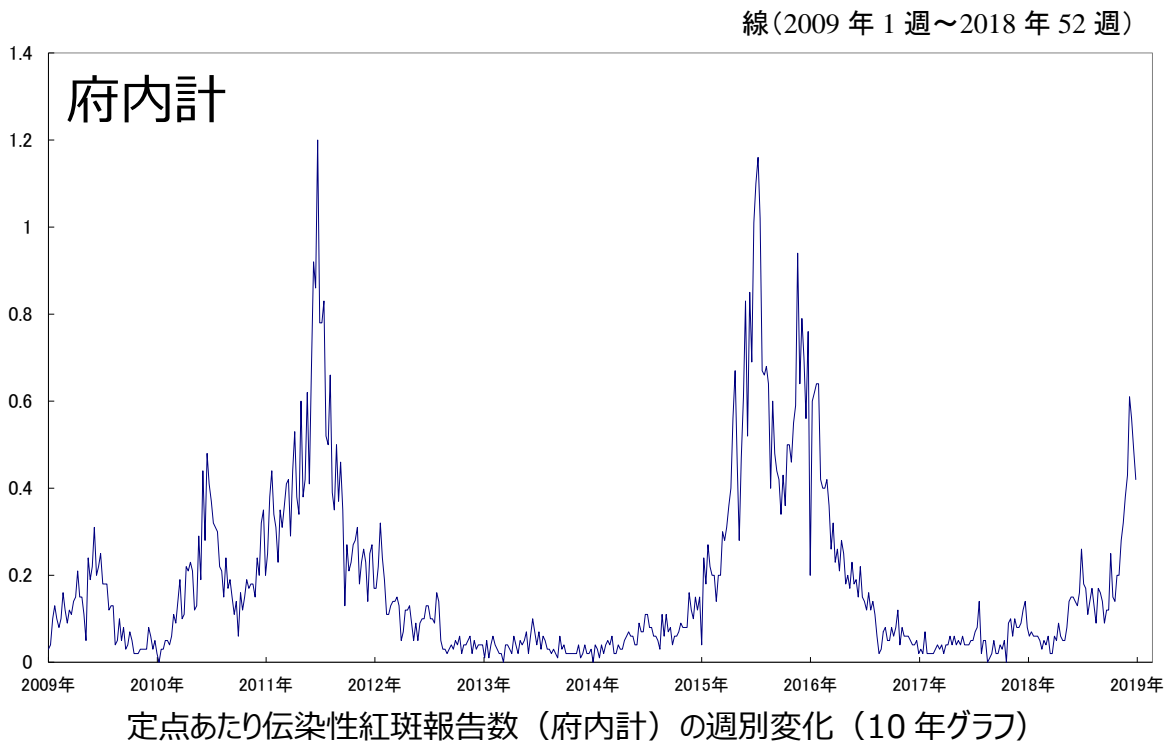
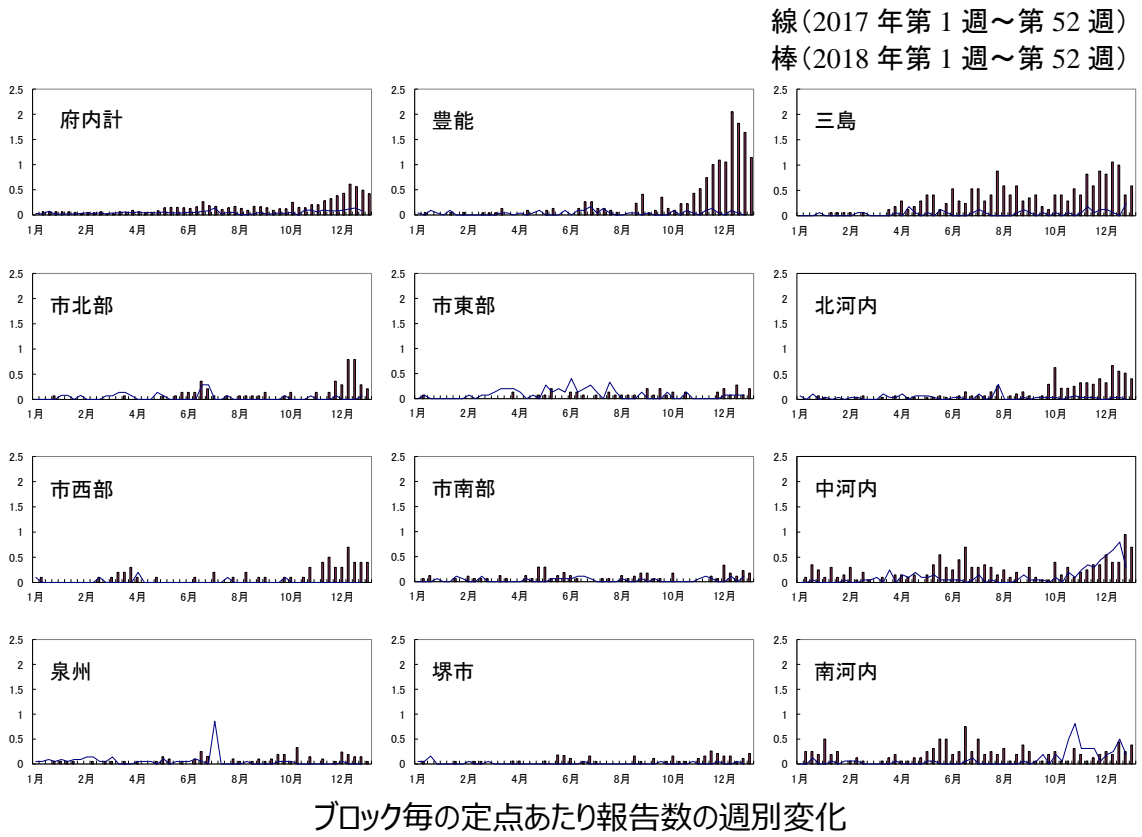
過去10年では、2011年、2015年とおおよそ4年毎に比較的大規模な流行があり、2018年後半にも比較的大きな流行（年間最高値0.96）があった。大流行と大流行の間の時期は比較的小さな流行（年間最高値が0.50以下）に留まっている。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、②三島0.34、①豊能0.29、④中河内0.25、⑤南河内0.21、③北河内0.14、⑨大阪市西部0.12、⑧大阪市北部0.10、⑪大阪市南部0.08、⑦泉州0.07、⑥堺市および⑩大阪市東部0.06の順であった。

年齢別報告数（0～9歳）は、5歳、4歳、6歳、3歳、7歳、8歳、2歳、9歳、1歳、0歳の順に多かった。5～9歳の報告数は896例で全体の54.4%を占めた。0～4歳、10～14歳、15歳以上の報告数と割合はそれぞれ643例（39.0%）、95例（5.8%）、14例（0.8%）であった。

（文責：吉田）

## 伝染性紅斑



## ●突発性発しん

2018年の突発性発しんの患者報告数は4,481例で、前年比2.4%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の3.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.43で、順位は第8位であった。

全国集計では71,177例の報告で、前年比2.9%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の3.8%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.43で、順位は第8位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、1月（第1週～第5週）の平均は0.27で、その後漸増して、5月（第19週～第22週）の平均は0.66と最高となった。その後漸減し、12月（第49週～第52週）の平均は0.34であった。年間最低値は第1週（1月）の0.15、年間最高値は第19週（5月）の0.79であった。

全国集計では、1月の平均は0.31で、その後漸増して、5月の平均は0.60と最高となった。その後漸減し、12月の平均は0.38であった。年間最低値は第1週の0.21、年間最高値は第19週（5月）の0.64であった。本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、冬に少なく春夏秋に多い傾向がみられた。

年齢別患者報告数は、1歳の2,322例（51.8%）が最も多く、0歳が1,527例（34.1%）、2歳が475例（10.6%）であり、0歳と1歳で全体の85.9%、2歳を含めると96.5%を占めた。

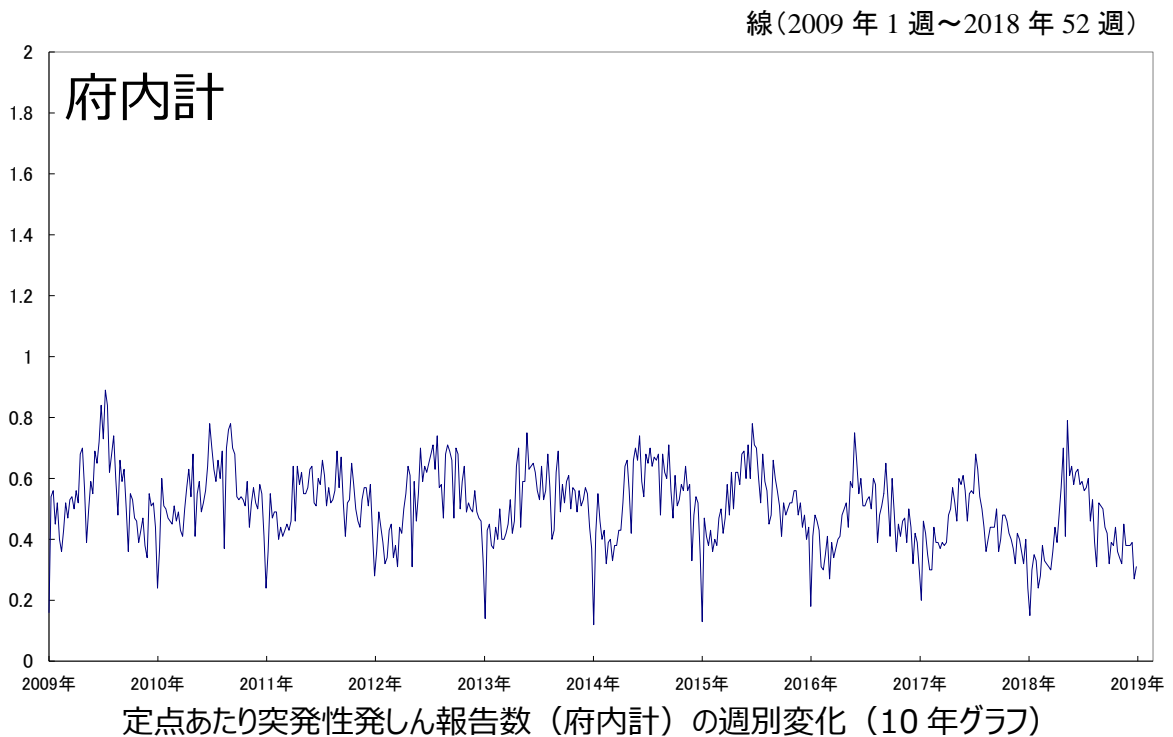
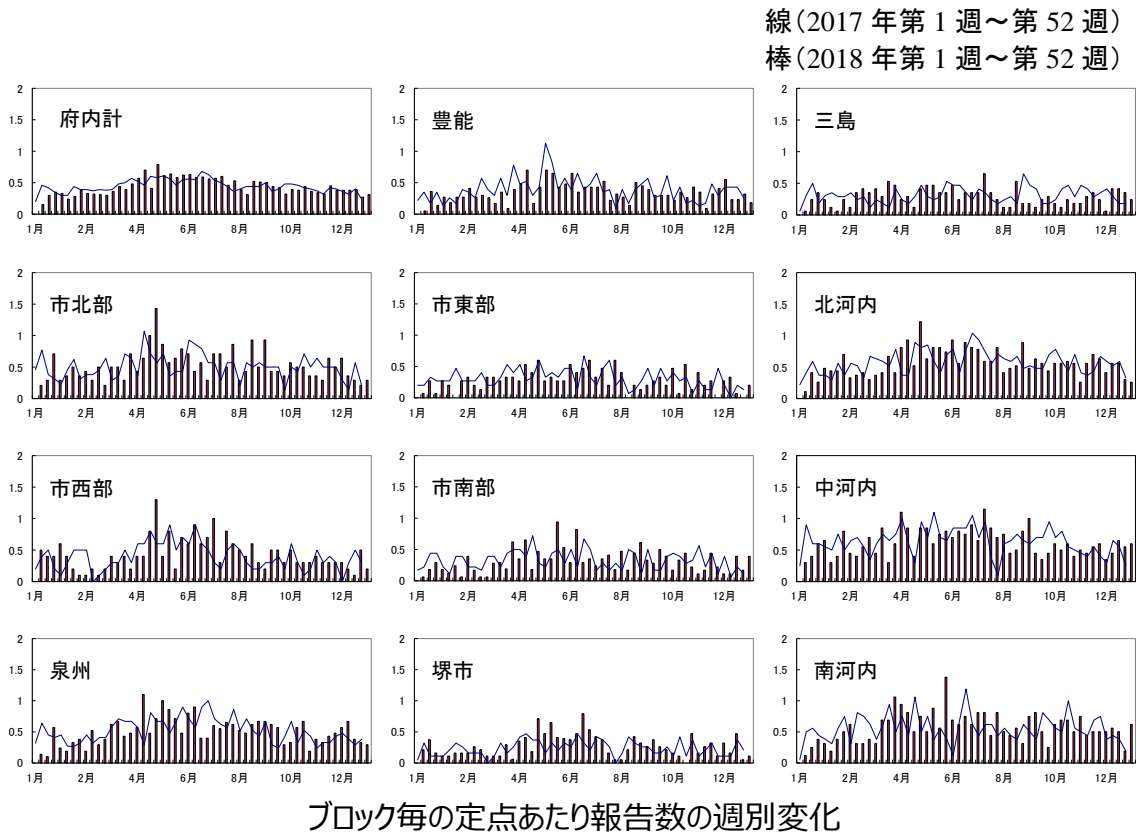
ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（795例）、④中河内（640例）、⑦泉州（550例）、⑤南河内（473例）、①豊能（403例）の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、④中河内（0.62）、③北河内・⑤南河内（0.57）、⑧大阪市北部（0.52）、⑦泉州（0.51）の順、下位5ブロックは、⑥堺市（0.27）、⑩大阪市東部（0.28）、②三島（0.29）、⑪大阪市南部（0.32）①豊能（0.34）の順で、最上位と最下位では約2倍以上の差があった。

本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがないかなど検討が必要と考えられる。

（文責：富吉）

突発性発しん



## ●ヘルパンギーナ

2018年と2017年の患者報告数の比較では、2018年の報告数は前年比6.6%増の5,293例で、総報告数の4.6%を占めた。大阪府における小児科定点当たり報告数の年平均は0.51で、順位は5位であった。日本全国における小児科定点当たり報告数の年平均は0.61で、順位は7位である。

週別（月別）の定点あたり報告数の推移では、第1週から第20週まで0.01～0.05で推移し、第20週（5月）に0.15となり増加に転じていた。第28週（7月）に、1.57となり、定点あたり報告数1.0を超え、第31週（7月）に2.56となり、2018年の中で、最大値に到達している。その後、第38週（9月）まで、1.0を超えて推移していたが、第39週（9月）に0.90となった。その後、減少が続き、第51週（12月）に0.10を下回る0.09となっている。

全国的には、第21週（5月）に0.14となり増加が始まり、第26週（6月）に1.0を超えて、第31週（7月）に最大値3.13となっている。その後、減少し、第39週（9月）に0.85と1.0を下回り、減少傾向となった。

年齢別患者発生数では、1歳 1,563例（29.5%）、2歳 1,112例（21.0%）、3歳 672例（12.7%）、0歳 572例（10.8%）、4歳（9.9%）の順で、0～4歳で全体の83.9%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、③北河内 1.01、⑧大阪市北部 0.93、⑤南河内 0.61、⑨大阪市西部 0.53、②三島 0.45の順であった。ブロック別・週別定点あたり報告数の上位5ブロックは、③北河内 5.89（第30週 7月）、⑧大阪市北部 5.14（第30週 7月）、⑪大阪市南部 4.00（第32週 8月）、⑤南河内 2.88（第31週 7月）、①豊能 2.65（第29週 7月）の順で、警報レベル開始基準値6.00を上回ったブロックはなかった。

病原体検出の陽性率は73.5%であった。コクサッキーウイルスA2型（9）、コクサッキーウイルスA10型（5）、コクサッキーウイルスA4型（5）、エコーウイルス11型（3）、コクサッキーウイルスA5型（1）、コクサッキーウイルスB1型（1）、エンテロウイルスA71型（1）、アデノウイルス1型（1）が検出されていた。

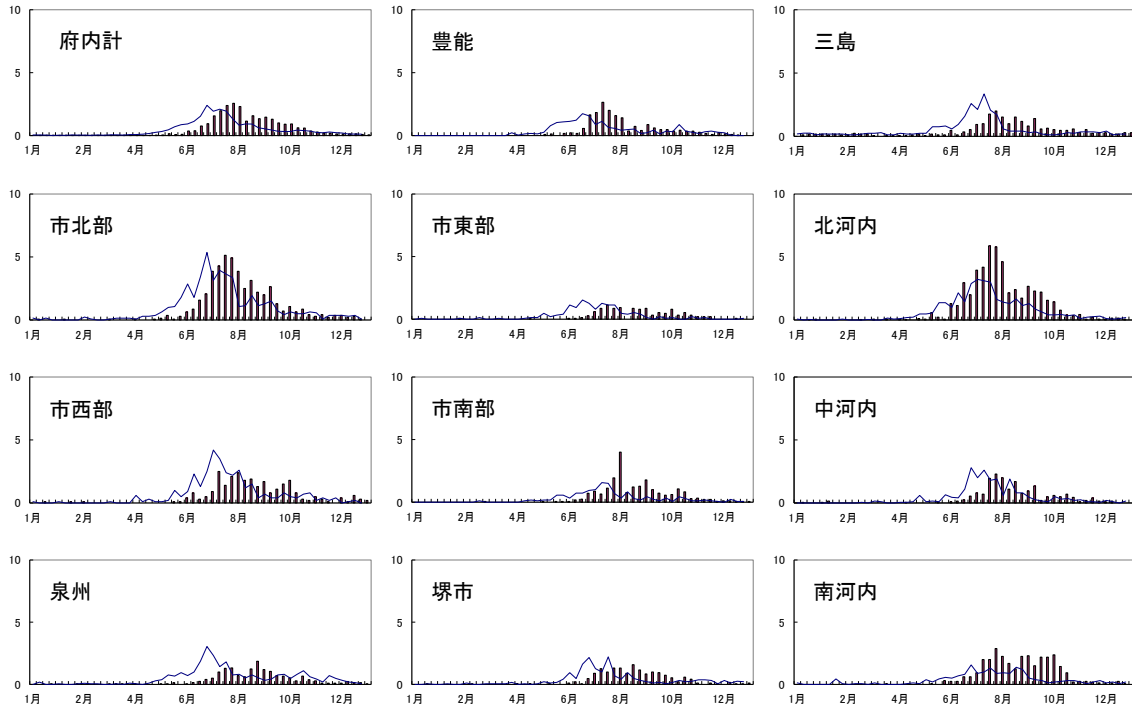
本疾患について、定点あたり報告数が、7月末にピークを迎える夏型感染症である。大阪府では、2014年（9,704例）、2016年（8,563例）と隔年で流行し、2018年も流行することが見込まれていたが、2018年の報告数は5,293例で前年比6.6%増にとどまった。

（文責：本村）



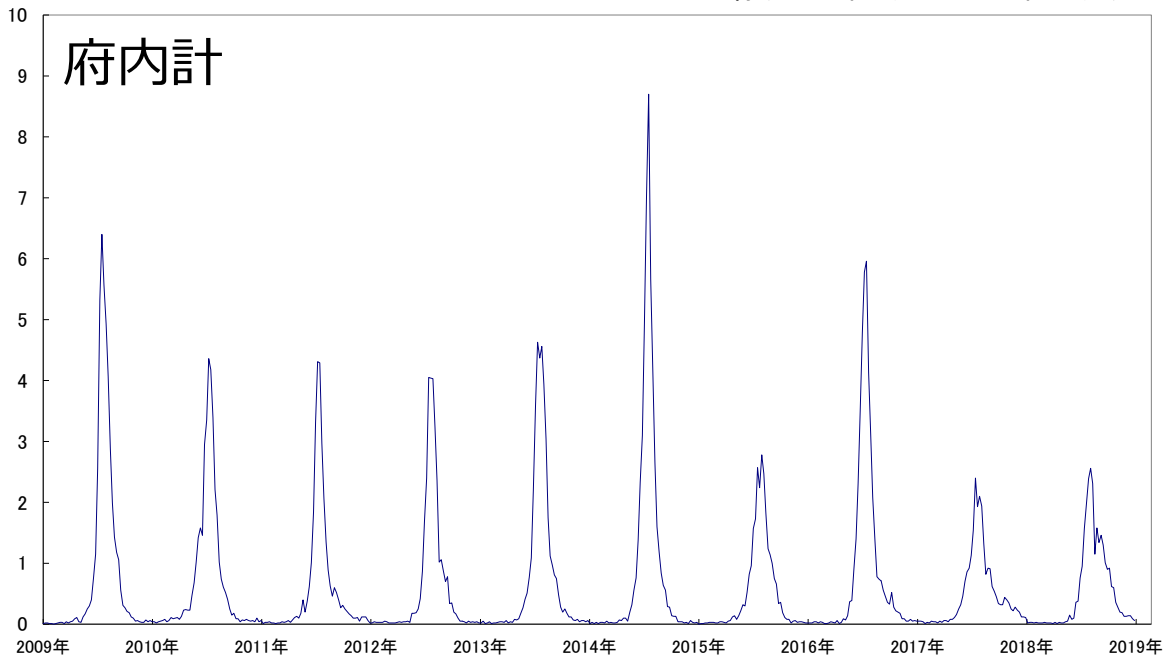
## ヘルパンギーナ

線(2017年第1週～第52週)  
棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

## ●流行性耳下腺炎

2018 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 1,251 例で、前年比 74.8%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 1.1%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.12 で、順位は第 11 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016 年から 2 年連続して大幅に減少した。

全国集計では 20,966 例の報告で、前年比 73.1%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 1.1%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.14 で、順位は第 11 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 34 週（8 月）の 0.21、年間最低値は第 49 週（12 月）と第 52 週（12 月）の 0.04 であった。

全国集計でも、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 2 週（1 月）の 0.21、年間最低値は第 52 週（12 月）の 0.10 であった。

年齢別患者報告数は、4 歳の 185 例が最も多く、以下 5 歳 180 例、6 歳 156 例、10 歳から 14 歳 147 例、7 歳 121 例、3 歳 120 例と続き、3 歳から 6 歳で全体の 51.2%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（218 例）、③北河内（217 例）、⑨大阪市西部（149 例）、⑤南河内（145 例）、⑧大阪市北部（120 例）の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑨大阪市西部（0.29）、④中河内（0.21）、⑤南河内（0.17）、⑧大阪市北部（0.16）、③北河内（0.15）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑧大阪市北部（第 41 週、1.14）、⑤南河内（第 28 週、0.94）、⑨大阪市西部（第 18 週、0.90）、⑨大阪市西部（第 17 週、0.80）、⑨大阪市西部（第 29 週、0.70）の順であった。

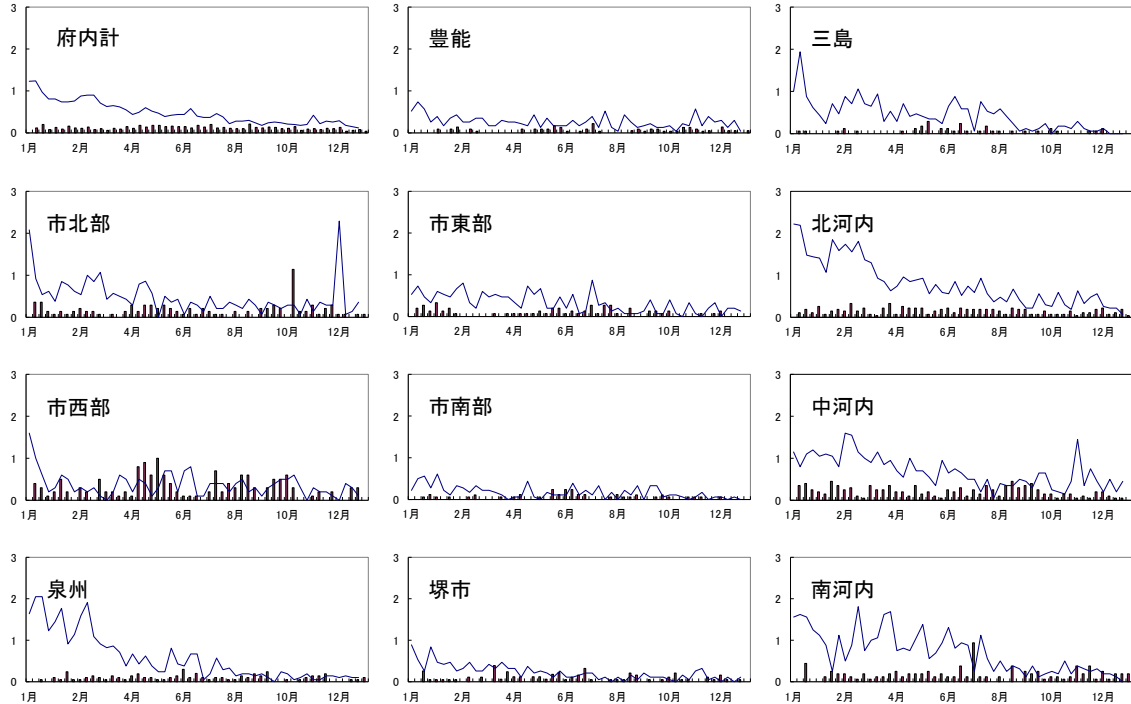
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は 12 検体あったが、陽性検体はなかった。

（文責：富吉）

## 流行性耳下腺炎

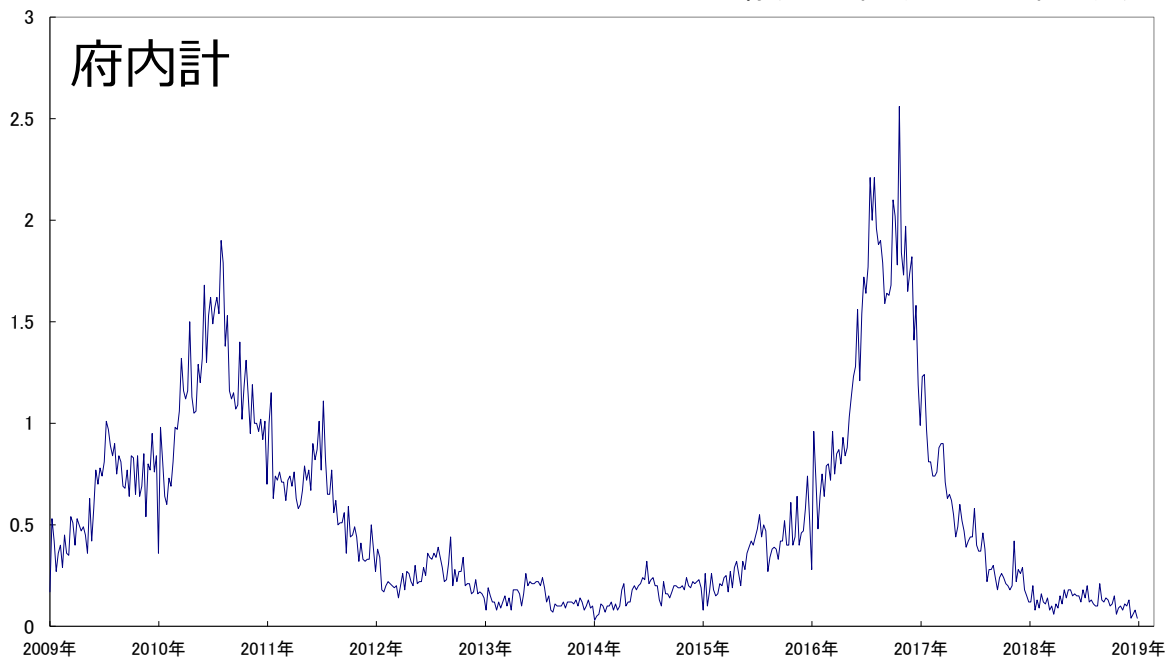
線(2017年第1週～第52週)

棒(2018年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別変化

線(2009年1週～2018年52週)



定点あたり流行性耳下腺炎報告数（府内計）の週別変化（10年グラフ）

### 3) 眼科定点把握疾患

#### ●急性出血性結膜炎

2018 年の急性出血性結膜炎の報告数は、45 例で前年より 3 例増加し、一定点眼科医療機関あたり 0.02 であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第 17 週の 0.10 (5 例) で、第 45 週の 0.08(4 例)、第 6 週と第 16 週と第 44 週の 0.06 (3 例) が続いた。報告の無い週が 28 週あった。

年間平均ブロック別で定点当たり高かったのは、⑦泉州の 0.06 で、以下⑥堺市の 0.04、大阪市北部の 0.03 と続いた。③北河内、⑪大阪市南部からの報告はなかった。

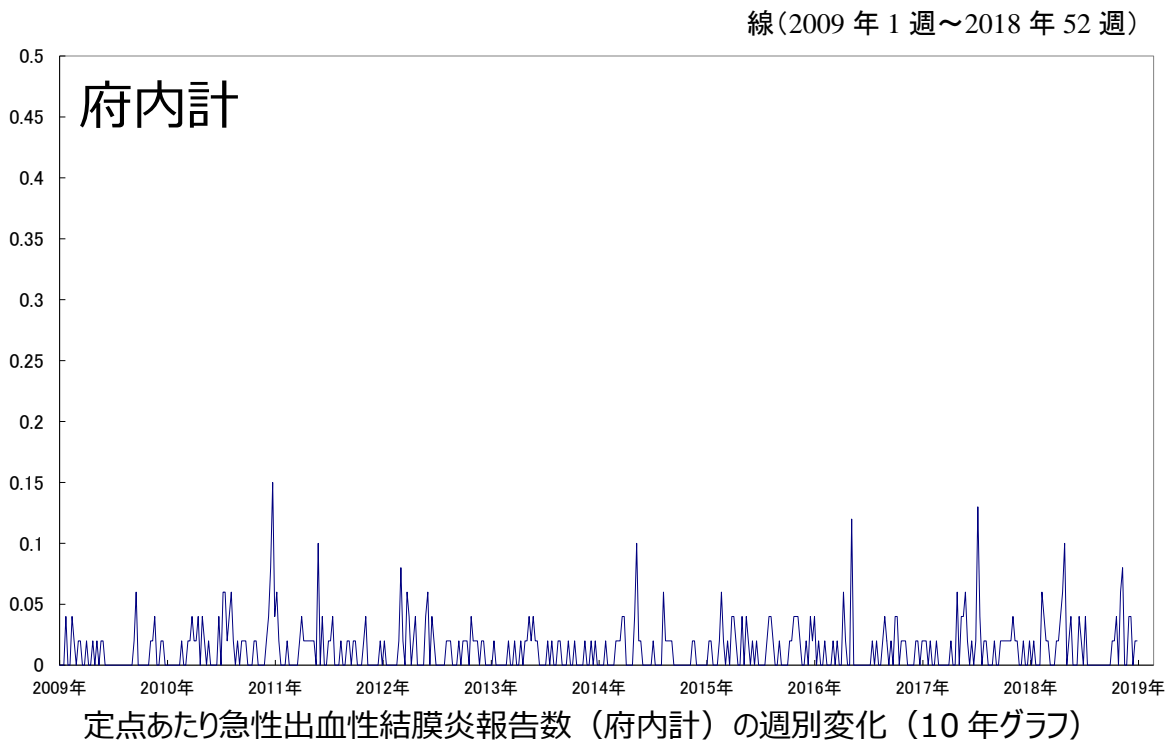
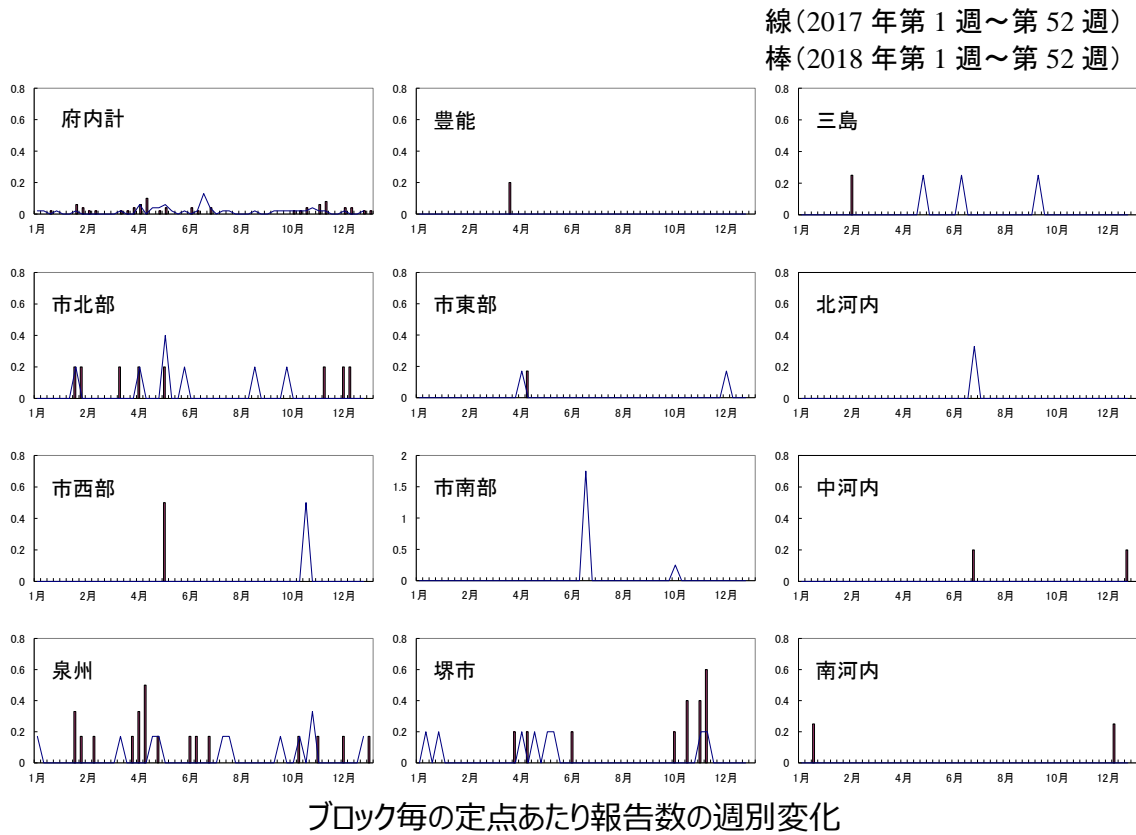
年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20 歳以上の報告数が 40 例と、全体の 88.9%を占めた。

最近 5 年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
大阪府	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02
全 国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

(文責 宮浦)

## 急性出血性結膜炎



●流行性角結膜炎

2018年の流行性角結膜炎の報告数は前年の16.0%増の1,285例で、一定点眼科医療機関あたり0.48であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第43週の定点あたり0.92で、第39週の0.90がこれに続き、以下、第37週の0.83、第41週と第45週の0.77となり、前年同様に府内で定点あたり1.0を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされており、発生件が多いとその傾向は顕著になる。本年は、第27週から第35週（7月～8月）までの9週に全体の17%、第36週から第44週（9月～10月）までの9週に全体の26%の報告があった。

ブロック別・週別では、定点当たりの報告数が最も多かったのは⑥堺市37週の2.80で、以下⑨大阪西部48週の2.50、⑥堺市19週の2.40、⑥堺市38週と39週の2.20と続いた。

年間平均ブロック別で報告数が最も多かったのは、⑥堺市0.81で、以下⑪大阪市南部と④中河内0.62、⑨大阪市西部0.52の順であった。最も低かったのは、⑧大阪市北部の0.26であった。

年齢別では、例年どおり成人（20才以上）の発生件数が多く、本年も869例と全体の67.6%を占めた。

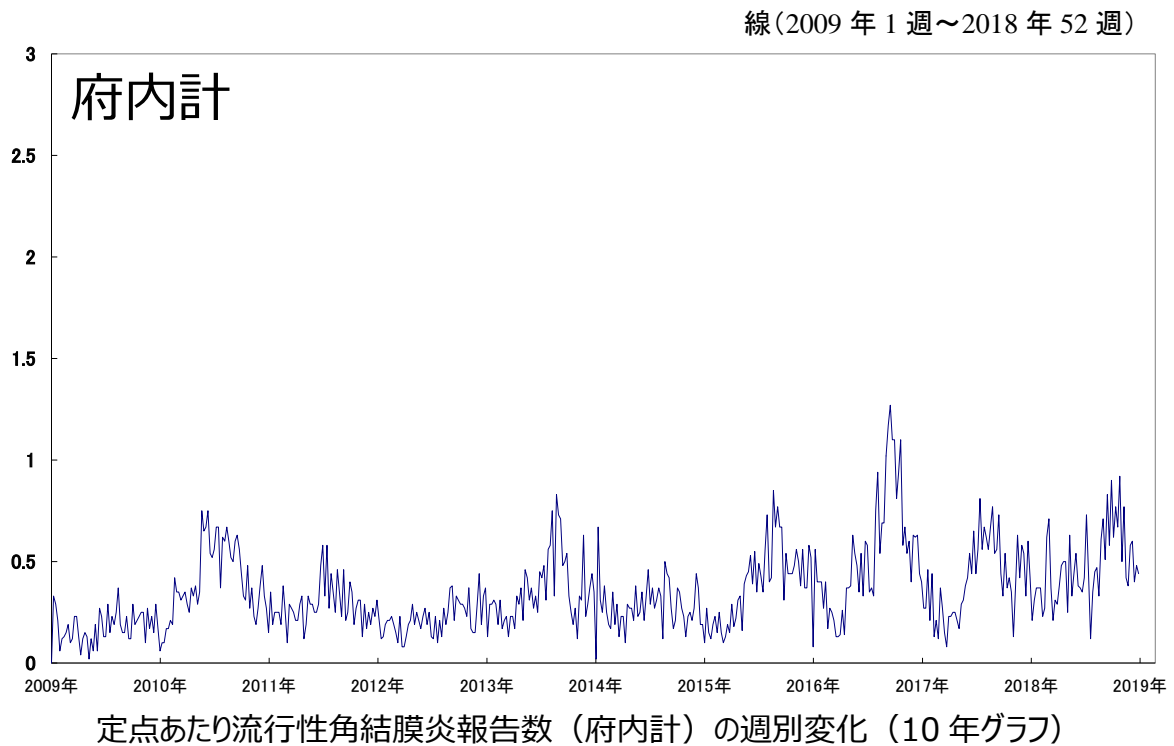
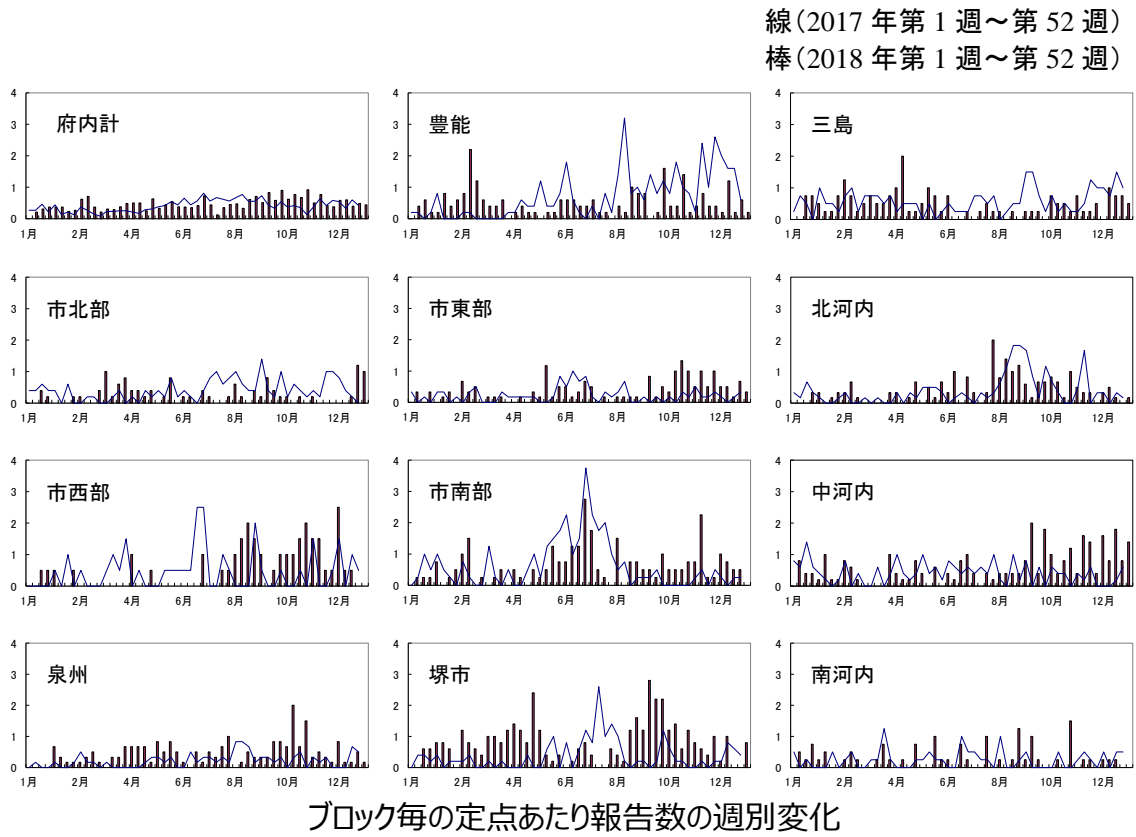
本年も、大阪府内の定点当たりの報告数は、全国集計よりも低かった。

最近5年間の一眼科定点あたりの流行性角結膜炎発生例件数

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
大阪府	0.28	0.38	0.54	0.41	0.48
全 国	0.57	0.69	0.73	0.74	0.85

(文責 宮浦)

## 流行性角結膜炎



#### 4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎[2013年4月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014年9月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。]、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、及び、2013年10月から報告対象となった感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎)の5疾患である。

表 基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年	2017年	2018年
(1)豊能	1	1	5	5	4	6		1	24	18
(2)三島	2	4	4		34	12			37	15
(3)北河内			1		30	39	1		4	5
(4)中河内	1	1		1	33	8			6	16
(5)南河内	4	5	5	5	21	5			65	82
(6)堺	5	5	27	14	58	30	2	1	57	42
(7)泉州	1	2		1	77	53			6	18
(8,9,10,11)大阪市	3	1	2		38	12			38	43
合計	18	19	44	26	295	165	3	2	237	239
定点数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
定点あたり大阪	1.06	1.12	2.59	1.53	17.35	9.71	0.18	0.12	13.94	14.06
定点あたり全国	1.10	1.06	2.00	1.68	17.53	11.66	0.56	0.30	10.43	6.74

表には2017、2018年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は17ある。1999年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。

以下に、各疾患について述べる。

##### ●細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

19例が報告され、定点あたり1.12で、2017年は18例、定点あたり1.06であり、前年比5.6%減であった。年齢は0歳6例、1～4歳2例、5～9歳児が3例、10歳台1例、20歳台2例、40歳台1例、50歳台1例、70歳台3例で、0～9歳児が57.9%であった。原因菌はB群連鎖球菌2例(4か月、40歳台)、その他の連鎖球菌2例(0か月、1か月)、カンピロバクター菌1例(20歳台)、リステリア菌1例(70歳台)、表皮ブドウ球菌1例(50歳台)、肺炎マイコプラズマ1例(9歳)であった。その他として、2例のロタウイルス、9例の原因菌不明があった。これらの症例が細菌性髄膜炎に該当するのか、ウイルスを含めた髄液の核酸検出による原因病原体微生物の同定検査の普及を期待したい。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエン



ザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、明確な規定が望まれる。

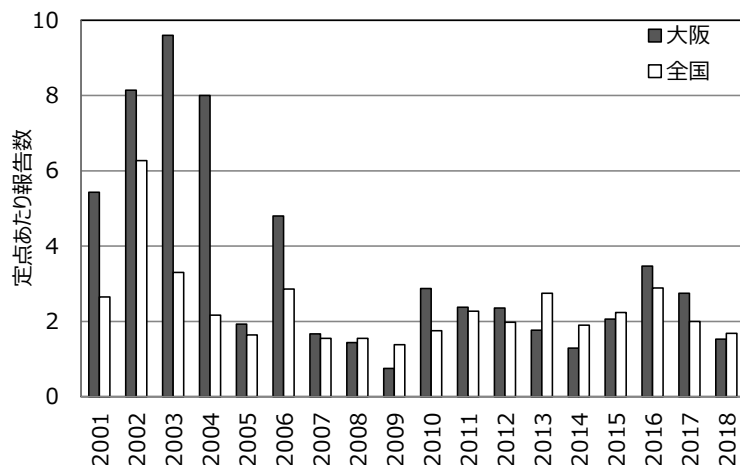
全国集計では2018年は507例の報告があり、定点あたり1.06、2017年は定点あたり1.10で2018年は前年比3.1%減であった。原因菌にはB群レンサ球菌5.3%、黄色ブドウ球菌4.7%、大腸菌3.2%(合計)、リステリア菌2.6%、肺炎球菌2.6%、肺炎マイコプラズマ3.6%などが多いが、また、ウイルスと原因菌不明の症例が合計60.1%を占めていた。

### ●無菌性髄膜炎

26例が報告され、定点あたり1.53で2017年は44例、定点あたり2.59で、前年比44.0%減であった。年齢は0～2ヵ月5例、1～4歳1例、5～9歳3例、10～14歳台1例、15～19歳3例、20歳台4例、30歳台1例、40歳台3例、50歳以上5例であった。0～9歳の割合が全体の34.6%で、2017年は36%であった。原因微生物としては、肺炎マイコプラズマ2例、水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)1例、陰性と記載なし23例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では平成30年の無菌性髄膜炎患者からエコーウイルス(E)I1型、E3型、コクサッキーウイルス(C)B5型、ヒトパレコウイルス(HPeV)3型、などが検出されている。無菌性髄膜炎では髄液以外にも便や咽頭、血液の検査も有用で、便検体27例中13例からE11型5例、E3型1例、CB5型1例、HPeV3型3例、HPeV4型1例が検出されたが、髄液65検体から7例のみ陽性にとどまった。図1に大阪府と全国の年間の定点あたりの報告数の推移を示す。大阪府では2007年以後無菌性髄膜炎の大きな流行がない。

全国集計では2018年は806例、定点あたり1.68、2017年は定点あたり2.00であり、2018年は前年比15.7%減であった。原因病原体は91.3%が不明、VZV13例、クリプトコッカス11例、単純ヘルペス7例、エンテロウイルス計7例、肺炎マイコプラズマ6例などである。国立感染症研究所のデータを参照すると無菌性髄膜炎の原因ウイルスではE11型13.8%、CB4型5.9%、CB5型5.4%、などが多かった。

図1 無菌性髄膜炎 年別基幹定点あたり報告数



### ●マイコプラズマ肺炎

165例の報告があり、定点あたり9.71で、2017年の定点あたり17.35に比し44.1%減であった。定点あたりの報告数は0例から53例と定点報告疾患の中で、定点間の差がもっとも大きい。年齢分布は図2-1

に示すように4歳をピークに、1歳～10歳に多かった。2017年、2018年の週別報告数と2018年の全国の週別報告数を図2-2に示した。流行年は週当たり10例以上の報告があるが、2018年は前半は5例以下、後半も最高が週当たり8例であった。全国では夏以降にわずかな増加がみられている。

全国集計では2018年は定点あたり11.66で、2017年の17.53に比し、27.4%減であった。図2-3に大阪府と全国のマイコプラズマ肺炎の年間の定点あたり報告数の推移を示す。大阪では2006年、2011年、2016年をピークとする流行があり、2011年を含む流行の方が2016年を含む流行より、報告数が多かった。全国では2012年、2016年をピークとする流行があったことがわかる。1990年代はじめまで日本では4年毎の流行周期がみられたが、諸外国では4～5年の流行周期が持続していると報告されている。

診断方法は核酸検出(PCR・LAMP等)が51.5%、抗原検出が37.6%、血清抗体価が10.3%で、血清抗体価による診断は2017年の23.1%から減少した。抗原検出の低い感度・偽陽性の存在、血清抗体価の上昇までの日数、抗体価の長期間の持続に、診断上の注意が必要である。急性期の検査として、核酸検出は感度、特異性が最も優れている、と報告されている。

図2-1 マイコプラズマ肺炎の年齢分布

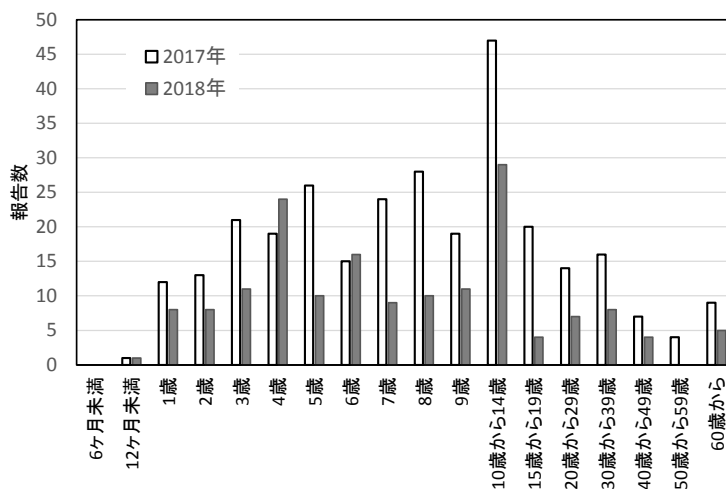


図2-2 マイコプラズマ肺炎の週別報告数

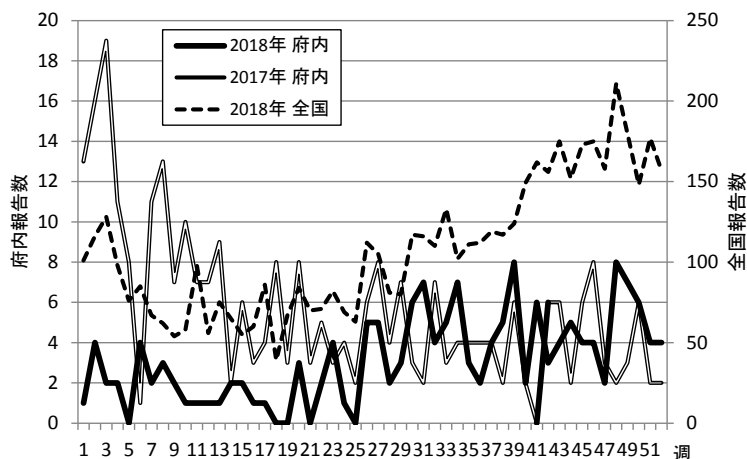
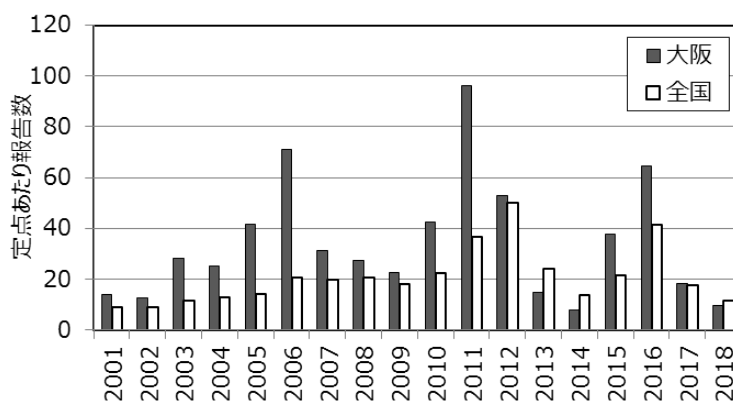


図2-3 マイコプラズマ肺炎 年別基幹定点あたり報告数



### ●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア (*Chlamydophila(Chlamydia) pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病 (*Chlamydophila (Chlamydia) psittaci*) は 4 種感染症である。

2018 年は 2 例の報告で、定点あたり 0.2、2017 年は 3 例の報告であった。年齢分布では 4 歳、74 歳であった。週別では第 5 週、18 週に報告された。診断法は血清抗体が 2 例で、1 例が肺炎クラミジアが原因と報告された。全国集計では 144 例の報告で、定点あたり 0.30 で、2017 年の 45.7% 減で、原因菌は肺炎クラミジアが多数を占め、クラミジア・トラコマチスは 1 例であった。クラミジア肺炎の報告数は減少傾向が続いている。また、以前から自治体間での報告数が大きく異なっていた。これらの要因は、信頼できる、安定した血清診断が存在しないことによるものであろう。多種類のウイルス、細菌の検出が可能な病原体微生物遺伝子診断機器の普及が望まれる。

### ●感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

239 例が報告され、定点あたり 14.06 で、2017 年に比し 2 例の減少のみであった。週別報告数では第 11 週から 10 を超える報告がはじめ、16 週の 27 をピークに低下し、20 週から 10 未満、第 25 週から 1 または 0 となり、第 48 週から再び 10 前後の報告となった。12 月の報告数の増加は 2014 年以来の現象であった。

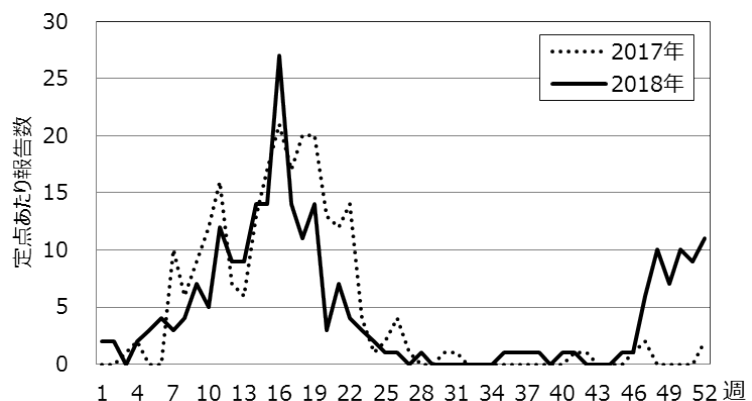
年齢は 1 歳が 21.8% と最も多く、2 歳 15.9% で、0~4 歳で 69.0% を占めた。図 3 にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。2011~2012 年に認可された、二つの弱毒生ロタウイルスワクチンの初回の接種は生後 6 週~15 週未満が推奨され、対象児の接種率は 60%~80% という調査報告もある。

低い接種率でも集団免疫効果も加わって、大きく入院数が減少しているといわれる。また、ワクチン被接種児が本症で入院することは少ない。本調査はワクチン任意接種の開始後の 2013 年途中から始まり、2014 年以後の報告数は定点当たり

13.5、17.2、23.88、13.96 と増加後に減少に転じたが、5 年目の本年は横ばいであった。当然ながら、ロタウイルスワクチンの定期接種化が望まれる。

全国では定点当たり 6.74 で 2016 年の 10.43 で、報告数は 35.0% 減であった。

図 3 ロタウイルス胃腸炎の週別報告数



(文責:塩見)

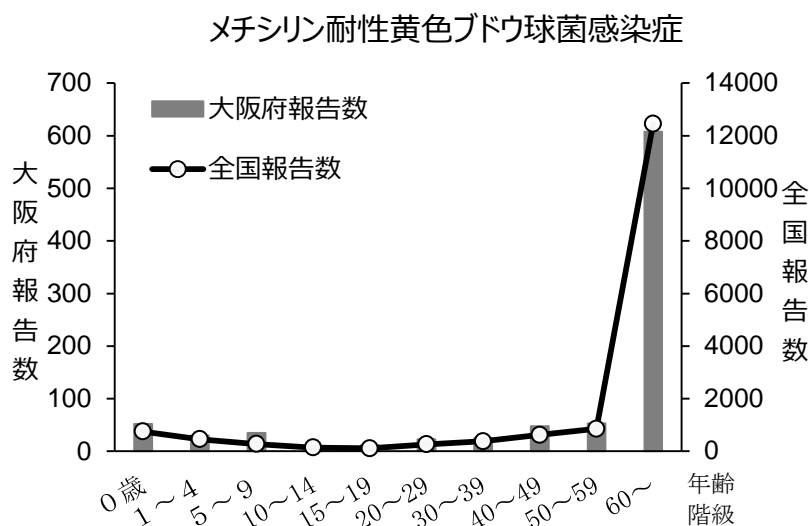
## 5) 基幹定点報告（月報）対象疾患

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は18であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

### ●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

⑩大阪市東部を除く10ブロックから前年比6.7%増の894例の報告があり、定点あたり報告数は49.7であった。年齢別構成は0歳児52例、1～4歳児30例、5～9歳児35例、10～14歳8例、15～19歳12例、20～29歳23例、30～39歳25例、40～49歳48例、50～59歳53例、60歳以上608例であり、60歳以上が68.0%を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

全国情報（NESID年報2019年3月2日現在）では前年比1.4%減の16,311例の報告があり、定点あたり報告数は33.9と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみる

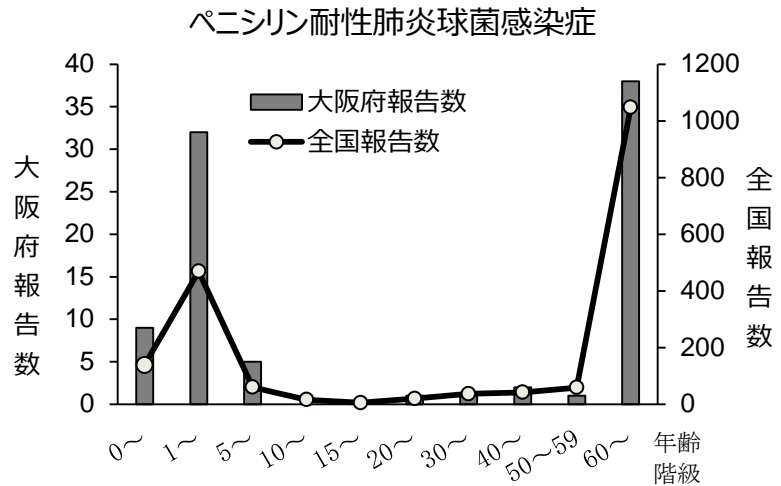


と60歳以上が12,448例と76.3%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の5.5%であった。

### ●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑥堺市33例、⑤南河内17例、①豊能16例、⑦泉州13例、④中河内7例、②三島3例の6ブロックから、前年比4.7%増の89例の報告があり、定点あたり報告数は4.9であった。年齢別構成では0歳児9例、1～4歳児32例、5～9歳児5例、10～14歳0例、15～19歳0例、20～29歳1例、30～39歳1例、40～49歳2例、50～59歳1例、60歳以上38例であり、0～4歳児と60歳以上が多く、それぞれ46.1%、42.7%であった。前年同様に0～4歳児と60歳以上の年齢群での報告数が多かった。

全国情報（NESID 年報）では前年比 5.7%減の 1,895 例の報告があり、定点当たり報告数は 3.9 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 0～4 歳児と 60 歳以上が多く、それぞれ 32.1%、55.3%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は、全国の 3.6%であった。

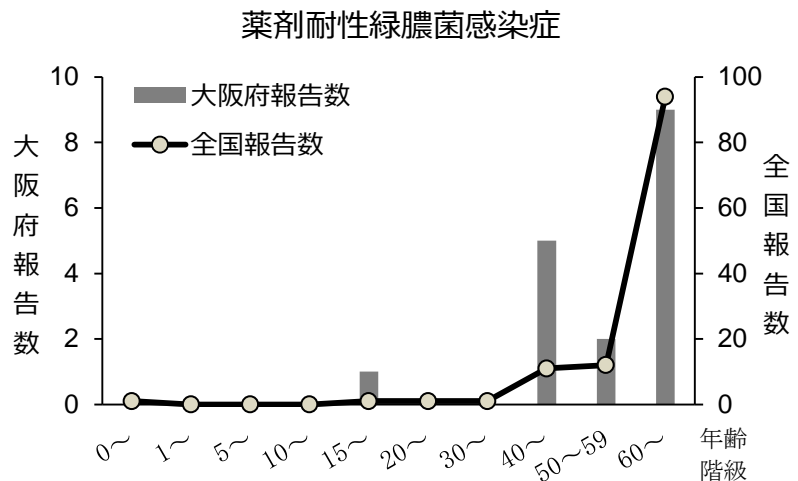


●薬剤耐性緑膿菌感染症

①豊能 6 例、⑤南河内 6 例、③北河内 2 例、②三島 1 例、④中河内 1 例、⑦泉州 1 例の 6 ブロックから 17 例報告があった。前年度 9 例から 17 例に増加した。定点当たり報告数は 0.94 であった。年齢別構成は、60 歳以上が 9 例であり、52.9%を占めた。

全国情報（NESID 年報）では前年比 5.5%減の 121 例の報告があり、定点当たり報告数は 0.25 と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると 60 歳以上が 94 例と 77.7%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の 14.0%であった。

（文責：木下）



2019年5月29日 大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

(第2893号)(昭和25年9月7日第三種郵便物認可)

大阪府医ニュース

2019年(令和元年)5月29日(毎週水曜日発行、但し第2週を除く)(6)

# 2018(平成30)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市  
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市の密接な連携のもとに実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所(森ノ宮センター・天王寺センター)、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。平成30年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

## はじめに

30年、大阪府の小児科定点は200、インフルエンザ定点は306、眼科定点は52、基幹病院定点は17であり、前年とほぼ同様である。

1年間の患者報告数は114,839人で前年より14.8%減少した。

疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いでA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順である。

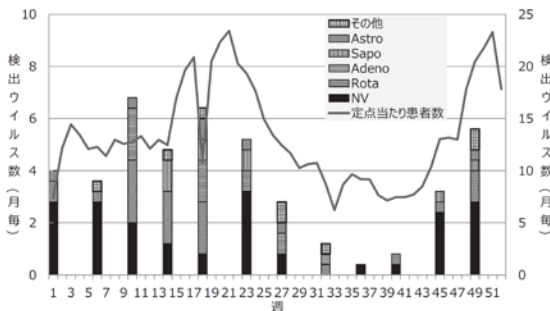
第6位以下は、手足口病、突発性発疹、水痘、伝染性紅斑、流行性角結膜炎、流行性耳下腺炎、急性出血性結膜炎と続く。

上位5疾患はそれぞれ全体の48.1%、18.6%、8.9%、4.6%、4.6%で、5疾患の合計が全体の85%を占めた。

## 【感染性胃腸炎】

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は55,220人で、前年に比し2.9%増加し、定点あたり報告数は、5.35であった。年齢別では1歳で8,381人(15.2%)と最も多く、2歳が6,221人(11.3%)、3歳が5,583人(10.1%)であり、3歳までで全体の36.6%を占めた。季節別では春期(3月～5月)に31.2%、夏期(6月～8月)に22.1%、秋期(9月～11月)に19.0%、冬期(12月～2月)に27.6%と春期と冬期が多かった。週別定点あたり報告数では第21週(9.36)、第51週(9.31)がピークであった。検出されたウイルスは、ノロウイルスが49株、ロタウイルスが27株、アデノウイルスが21株、アストロウイルスが9株、サポウイルスが10株、エコーウイルスが3株、ヒトパレコウイルスが1株であった(図1)。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は239人であった。

(図1) 2018年感染性胃腸炎定点当たり患者数と検出ウイルス数(大阪府内計)



## 【ヘルパンギーナ】

第4位のヘルパンギーナは5,293人で、前年に比し6.6%増加し、定点あたり0.51であった。年齢別では1歳が1,563人(29.5%)で最も多く、2歳が1,112人(21.0%)、3歳が672人(12.7%)、4歳が523人(9.9%)、6カ月から12カ月未満が521人(9.8%)と続き、全体の83.0%を占めた。季節別では、春期に1.8%、夏期に41.3%、秋期に30.6%、冬期に2.4%であり、夏期が多かった。週別定点あたり報告数では第31週(2.56)が最多であり、次いで第30週(2.39)、第32週(2.31)であった。

## 【RSウイルス感染症】

第3位のRSウイルス感染症は10,174人で、前年に比し12.9%減少し、定点あたり0.98であった。年齢別では1歳が3,651人(35.9%)で最も多く、6カ月から12カ月未満が2,189人(21.5%)、6カ月未満が1,710人(16.8%)、2歳が1,524人(15.0%)であり、全体の89.2%を占めた。季節別では、春期に9.5%、夏期に31.3%、秋期に42.6%、冬期に16.6%であり、秋期が多かった。週別定点あたり報告数では第36週(3.49)が最多であり、次いで第37週(3.36)、第38週(3.02)であった。

## 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21,308人で、前年に比し1.3%減少し、定点あたり2.07であった。

年齢別では5歳が2,885人(13.5%)で最も多く、4歳が2,761人(13.0%)、6歳が2,537人(11.9%)、3歳が2,242人(10.5%)と続き、全体の48.9%を占めた。季節別では、春期に26.9%、夏期に20.9%、秋期に22.9%、冬期に25.1%であり、春期と冬期が多かった。週別定点あたり報告数では第22週(3.31)が最多であり、次いで第23週(3.23)、第21週(3.11)、第20週(3.00)であり、冬期の第51週(3.05)にも増加した。

## 【咽頭結膜熱】

第5位の咽頭結膜熱は5,234人で、前年に比し0.5%増加し、定点あたり0.51であった。年齢別では1歳が1,479人(28.3%)で最も多く、2歳が762人(14.6%)、3歳が701人(13.4%)、4歳が614人(11.7%)であり、全体の67.9%を占めた。

季節別では、春期に23.1%、夏期に31.8%、秋期に23.6%、冬期に21.6%であり、夏期が多かった。週別定点あたり報告数では第23週(1.14)が最多であり、次いで第22週(1.09)であり、第50週(1.08)、第51週(1.01)にも増加した。

## 【インフルエンザ】

インフルエンザの患者報告数は98,247人で前年に比し24.9%減少し、定点あたり6.21であった。年齢別では20歳以上の年代が22,813人(23.2%)と最も多く、次いで10～14歳が15,854人(16.1%)、5歳が7,509人(7.6%)であった。17/18シーズンは週別定点あたり報告数が警戒レベルの30を超えたのは第3週(44.30)、第4週(42.48)、第5週(45.13)、第6週(38.38)であった。第14週に1以下(0.87)になり終息した。18/19シーズンは第48週に1を超えた(1.25)。17/18シーズンに検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が123株、AH1pdm09が67株、B型が163株、AH型別不能が1株であった。AH3亜型は2月、AH1pdm09は1月、B型は2月にそれぞれピークがあった。18/19シーズンの12月までに検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が13株、AH1pdm09が54株、B型が1株であった(図2)。

## 【麻疹・風しん】

風しんは9月頃から首都圏を中心に患者が増加し、大阪でも第37週頃から報告数が増加しており、1年間の報告数は120例であり、29年の報告数10例を大きく上回った。麻疹は第47週頃から報告数が増えてきており、1年間の報告数は15例となり、29年の報告数10例を上回った。

## おわりに

昭和57年(1982年)に感染症発生動向調査事業を開始して36年が経過しました。この間、関係各位のご理解・支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2019年も、ご理解・支援のほどをお願いいたします。

報告：東野博彦(河内医師会)

(図2) 2017/18、2018/19シーズン インフルエンザ定点当たり患者数と検出ウイルス数(大阪府内計)

